

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	チーム医療論Ⅰ	担 当 教 官 名	辻井 智
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	チームリハビリテーション、多職種連携、		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 チーム医療の基本概念と作業療法士の働く分野、関わる職種の働きなどを実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①多職種連携の目的、効果、構成職種を理解し説明できる ②作業療法士としての職域、役割について理解し説明できる ③クラスをチームとして捉え、共に学び協同することができる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた 資格：作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（チーム医療の必要性 チーム医療の目的・効果・構成職種） 2 チーム構成職種を理解する（理学療法士：役割、歴史、職域） 3 チーム構成職種を理解する（言語聴覚士：歴史役割、職域） 4 チーム構成職種を理解する（鍼灸師：歴史役割、職域） 5 チーム構成職種を理解する（トータルピューティー/ネイリスト：福祉ネイルについて） 6 チーム構成職種を理解する（健康運動指導士：歴史役割、職域） 7 構成職種の理解と作業療法士としての役割、可能性について（発表準備） 8 構成職種の理解と作業療法士としての役割、可能性について（発表） 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業終了後に授業内容のまとめを記入し、レポートの提出をしてください。 提出〆切は授業終了後1週間後を基本とします。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器、ホワイトボード		
成績評価の方法	定期試験(50%) レポート/発表(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	チーム医療にはコミュニケーション力や観察力が必要となります。各職種の理解では専門職の方々が講師となり実技授業を行います。その中で、作業療法士が活躍できる職域や可能性について考えていくましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	基 础 分 野
授 業 科 目 名	医学総論	担 当 教 官 名	渡邊 弘樹
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	人体器官組織の形態 器官組織の機能 疾患病態との融合知識		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 医学の基本理念や日本の医学制度について学びます。</p> <p>到達目標 ①細胞組織レベルの変化が病態と結びつくことを概説できる ②消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿生殖器系、中枢神経系の各器官、組織、細胞レベルの特徴について、形態と生理機能的に説明できる。 ③解剖と生理学を融合した各臓器器官の説明ができる。</p> <p>実務者経験 前解剖学大学教授、医学博士(岡山大学)、歯科医師</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 細胞① 2 細胞②と活性酸素フリーF42:P67+F42:P71 3 皮膚と消化器系Ⅰ(口腔、咽頭) 4 消化器系Ⅱ(食道、胃、小腸、大腸) 5 消化器系Ⅲ(肝臓、胆嚢、脾臓) 6 消化器系Ⅳ(食道、胃、小腸、大腸) 7 まとめ 融合理解の確認 8 内分泌系(脾臓、副腎、甲状腺、下垂体) 9 心臓と血液循環器系 10 呼吸器系(鼻腔、喉頭、気管、肺) 11 腎臓と泌尿生殖器系 12 感覚器系 13 中枢神経系 14 末梢神経系 15 まとめ (到達目標チェックポイント) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	特記無し		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 医学書院 2 同生理学 3 配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 特記無し		
成績評価の方法	中間試験、定期試験(合わせて100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	限られた講義時間ですべての必要項目を学ぶため、1講義あたりの進度が速い。よって、講義時に配布される穴埋め講義ノートプリントを利用した講義終了後の復習が必要である。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	運動学 I	担 当 教 官 名	岩井 有香・谷村浩子
対 象 学 生	1	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	骨・関節・韌帯・筋・関節の種類 肘関節の運動		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 運動の基本概念と運動に関する器官と仕組みについて習得します</p> <p>到達目標 ①運動器の構造と機能について説明できる。 ②肘関節、前腕の構造について説明できる。 ③関節運動に必要な筋の起始停止・支配神経を説明できる。</p> <p>実務者経験 2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 動きの方向の復習、運動器の構造と機能(岩井)</p> <p>2 運動器の構造と機能 関節と骨(岩井)</p> <p>3 運動器の構造と機能 運動軸の理解(岩井)</p> <p>4 運動器の構造と機能 骨格筋の構造と機能(岩井)</p> <p>5 生体力学 てこ(堂岡)</p> <p>6 筋の起始停止、骨の部位の名称(谷村・岩井)</p> <p>7 筋の起始停止、骨の部位の名称(谷村・岩井)</p> <p>8 筋の起始停止、骨の部位の名称(谷村・岩井)</p> <p>9 筋の起始停止、末梢神経の支配筋(谷村・岩井)</p> <p>10 筋の起始停止、末梢神経の支配筋(谷村・岩井)</p> <p>11 肘関節・前腕の運動学 肘関節の構造(谷村)</p> <p>12 肘関節・前腕の運動学 関与する筋(谷村)</p> <p>13 肘関節・前腕の運動学 関与する筋(谷村)</p> <p>14 肘関節・前腕の運動学(谷村)</p> <p>15 まとめ 国家試験演習(岩井)</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	受講するにあたり解剖学的知識のが理解には必須ですので十分に復習をして取り組んでください		
教科書・教材等	理学療法・作業療法テキスト 運動学 講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器、模型等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解剖学を十分復習して臨んで下さい。正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。毎回の講義内容が膨大なものとなるため、予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしないようにしましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	栄養学	担当教官名	山本 千恵
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	栄養素の代謝 栄養素の役割 人体の機能維持 リハビリテーション医療		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 健康を維持するための栄養とその指標、食事法などについて学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①三大栄養素の消化、吸収と体内での代謝、排泄について理解できる ②正常な栄養状態を維持する栄養素の必要量の考え方について理解できる ③リハビリテーション医療について説明できる ④講義内容を振り返り、栄養状態を維持・改善するための栄養補給について理解し、説明することができる <p>実務者経験 管理栄養士として実務経験を有する。 平成16年～平成18年3月まで病院の栄養管理室に勤務し、心臓疾患をはじめとする様々な疾患に対する栄養指導を実施。平成18年～平成21年まで社会福祉法人に勤務し、高齢者の栄養ケアマネジメント業務を行っていた。現在は乳幼児から高齢者まで様々な年齢の市民に対して栄養情報を提供する地域活動をはじめ、保育者養成施設において栄養に関する授業を担当している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について 栄養の基礎①(糖質、食物繊維) 2 栄養の基礎②(脂質、たんぱく質) 3 栄養の基礎③(ビタミン、ミネラル、水) 4 栄養の基礎④(栄養素の消化・吸収について) 小テスト 5 栄養の基礎⑤ (エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準について) 6 ライフステージと栄養 (乳児期～高齢者まで各ライフステージにおける栄養について) 7 多職種におけるチームアプローチについて 小テスト 8 臨床栄養、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	1回目の授業で授業計画表を配布します。授業日程、授業内容を確認し、教科書及び配布プリントをよく読み、予習と復習に取り組み理解を深めてください。また、授業内で小テストを実施します。説明する該当箇所を復習し取り組んでください。		
教科書・教材等	系統看護学講座 栄養学		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パワーポイント使用		
成績評価の方法	小テスト(30%) レポート課題(10%) 定期試験(60%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	リハビリテーションと栄養学は密接な関係にあります。本講義では栄養学の基本的な知識を習得するとともに、リハビリテーションを必要とする方々に役立つ栄養の知識も習得できるよう、授業を進めていきます。また、授業内で小テストを2回実施し、理解度を評価していきます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学 I -2(内科系)	担当教官名	森嶋 祥之
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	排泄消化・吸収、代謝、ホメオスタシス		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 循環・消化・排泄・代謝に関する器官と構造等について学ぶ</p> <p>到達目標 構造と機能の基本がわかること</p> <p>実務者経験 卒業後国家資格を取得 1978年 臨床検査技・薬剤師 1978年～2021年 近畿大学病院・中央臨床検査部勤務 主な著書:薬剤師のための基礎からの検査値の読み方</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 尿の生成と排泄①腎臓の役割、腎臓の構造 2 尿の生成と排泄②尿の生成、クリアランス 3 尿の生成と排泄③排尿、排尿異常 4 消化と吸収①消火器の役割、口腔内消化と嚥下、食道 5 消化と吸収②胃の役割と消化 6 消化と吸収③十二指腸、空腸、回腸 7 消化と吸収④大腸の役割、肝臓の役割 8 小テスト 9 内分泌①内分泌機能とホルモン(1) 10 内分泌②内分泌機能とホルモン(2) 11 内分泌③ホルモンの作用(1) 12 内分泌④ホルモンの作用(2) 13 代謝と体温①栄養素、エネルギー代謝 14 代謝と体温②体温 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	該当する教科書の箇所を読んでおくこと		
教科書・教材等	教科書(標準理学療法・作業療法 解剖学／生理学) パワーポイント		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	サブテキストとしてpptを使用しますが、「生理学」の教科書も毎回必ず持参してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学Ⅱ-2(神経系)	担当教官名	糟谷 圭吾
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	筋の分類 骨格筋の構造 骨格筋の収縮機序 心筋の特徴と収縮機序 平滑筋 運動生理		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 脳・中枢及び末梢神経の構造・働きについて学びます。</p> <p>到達目標 生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を受める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 筋の分類</p> <p>2 骨格筋の構造 神経支配</p> <p>3 骨格筋の興奮収縮連関</p> <p>4 骨格筋の収縮機序</p> <p>5 骨格筋線維の種類</p> <p>6 筋の肥大と萎縮</p> <p>7 筋紡錘とGolgi腱器官</p> <p>8 心筋の活動電位と興奮収縮連関</p> <p>9 長さ-張力関係</p> <p>10 平滑筋の機能</p> <p>11 張力の発生と収縮</p> <p>12 運動生理 筋力と持久力</p> <p>13 筋収縮とエネルギー産生機構</p> <p>14 運動強度と酸素摂取量</p> <p>15 運動に伴う全身の変化 まとめ</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	前提:この授業を受講するにあたり解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習が必要である。当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂 第6版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(100%) 定期試験にて知識の到達評価を行う。		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。ともすれば、暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習していく欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	專 門 分 野
授 業 科 目 名	基礎作業学Ⅱ	担 当 教 官 名	辻井 智
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	創作活動 作業分類 作業分析 評価・治療と根拠		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法の基本的な思考過程を作業療法場面で多用される活動を用いて習得します。</p> <p>到達目標 作業が治療法として成り立つ要件や根拠し説明できる。 対象者の目的に応じた作業活動を提案、考え方を理解し説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた。 資格：作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・作業療法の理論と役割 2 身体運動技能と作業分析の理論と方法 3 認知技能と作業分析の理論と方法 4 心理社会的技能と作業分析の理論と方法 5 感覚統合と作業分析の理論と方法 6 季節作業 7 季節作業 8 特殊工具を使った作業 9 特殊工具を使った作業(作業分析) 10 作業作成 11 作業作成 12 作業発信 13 身体機能作業療法への治療的応用① 14 精神機能作業療法への治療的応用②・まとめ 15 精神機能作業療法への治療的応用③・まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	標準作業療法学 基礎作業学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業活動を通して、「楽しむこと」「試行錯誤すること」「作業過程でどのような身体・精神機能が用いられるか考えること」「作業過程をどう対象者に提供できるか考えること」を期待します。観察が評価へ繋がることを感じてほしい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	作業療法総合演習Ⅰ-1	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	医療福祉 障がい者スポーツ 小児発達		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 1年次に学習した基本の手技を応用できるよう実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①臨床における必要な知識・技術を身につけ実践する事ができる。 ②分野による作業療法士の役割の違いを知る。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ユニフォームの着用 感染対策について 2 患者誤認と転倒について 3 転倒予防について リスク管理について 4 移乗・リスク管理について 5 バイタルサインについて 6 意識障がいの評価(JCS/GCS) 7 意識障がいの評価と認知機能について 8 認知機能評価について(MMSE/HDS-R) 9 認知機能評価について(MoCa) 10 各検査の意義(バイタル 可動域 反射 周径) 11 スポーツにおける作業療法 12 スポーツにおける作業療法 13 医療福祉と作業療法 14 医療福祉と作業療法 15 実習における心構え 16 まとめ 		
準備学習	授業前にそれぞれの分野について予習をしておきましょう		
教科書・教材等	配布資料 標準作業療法学作業療法評価学 臨床実習とOSCE		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	それぞれの分野から作業療法士の職域や可能性について考えましょう。関わりの中で視点を広げる力も身につけ臨床実習で必要な知識、技術を得ましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	作業療法総合演習Ⅰ-2	担 当 教 官 名	高橋 玲
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	医療用語、人体の構造と生理機能、疾病の成り立ち、病態		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 正常な人体の構造と機能を理解し、それらに異常生じるメカニズムを理解する。</p> <p>到達目標 医学的内容を理解するためのツール、すなわち医学的知識の導入に必要な基本的な要素を説明できる。さらに、からだの異常や疾患を理解するのに必要な知識とメカニズムを説明できる。</p> <p>実務者経験 同志社女子大学名誉教授、京都大学医学部非常勤講師、愛媛大学医学部非常勤講師:機能形態学・病理学の授業担当歴30年、病理専門医、細胞診専門医、臨床検査専門医として医療に携わっている。</p>		
講義計画・内容	1 オリエンテーション・からだの成り立ちと生体反応 ① 2 からだの成り立ちと生体反応 ② 3 からだの成り立ちと生体反応 ③ 4 呼吸器系の成り立ちとその異常 ① 5 呼吸器系の成り立ちとその異常 ② 6 呼吸器系の成り立ちとその異常 ③ 7 循環器系の成り立ちとその異常 ① 8 循環器系の成り立ちとその異常 ② 9 循環器系の成り立ちとその異常 ③ 10 消化器系の成り立ちとその異常 ① 11 消化器系の成り立ちとその異常 ② 12 消化器系の成り立ちとその異常 ③ 13 泌尿生殖器系の成り立ちとその異常① 14 泌尿生殖器系の成り立ちとその異常② 15 まとめ 16 定期試験・試験解説		
準備学習	[レポート提出]各回の授業課題を各自で予習してから授業を受ける。		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学解剖学 標準理学療法学・作業療法学生理学(医学書院) Dr.レイの病理学講義(金芳堂)		
授業の形式 教育機器の活用	演 習 視聴覚機器・PC		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	医学用語が多く出てきます。あらかじめ専門用語や予習課題内容を予習してから授業に臨み、理解度を高めてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法評価学 I -1	担 当 教 官 名	西林賢裕・竹内章子
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	作業療法と評価 評価の意義 評価の種類		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法での評価の目的と意義、最も多用されている評価法を習得します。</p> <p>到達目標 ①作業療法における評価の意義を説明できる ②作業療法の評価の目的と手段について具体的に述べられる ③評価の手段と用いられる尺度を関連づけることができる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年—2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年—継続し臨床現場での作業療法を実施 　　臨床現場では新人、学生指導に従事 2018年—理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年—臨床実習指導者講習修了 2023年—教育修士(専門職)修了</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・作業療法評価の基礎 2 作業療法の効果判定 3 領域共通の評価:面接法・観察法 4 領域共通の評価法意識の評価及びバイタルサイン 5 領域共通の評価法:形態測定 6 領域共通の評価法:関節可動域測定 7 領域共通の評価法:筋力検査 8 領域共通の評価法:感覚・知覚検査 9 領域共通の評価法:筋緊張検査 10 領域共通の評価法:反射検査 11 まとめ 12 領域共通の評価法:姿勢反射検査・バランス機能検査 13 領域共通の評価法:協調検査 14 領域共通の評価法:脳神経検査 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	講義中に整理が出来るように教科書を使い学習		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第4版-医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	演 習　　視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実技に向けて、終了した内容は、評価ノートを作成しながら整理しておくこと		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法評価学Ⅰ－2	担 当 教 官 名	西林賢裕・竹内章子
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	評価の理解 評価実施手順 評価の意義・目的		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に身体障害分野で多用する評価法の知識と方法を実践を通して習得します</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①作業療法評価を整理することが出来る ②適切に評価を選択することが出来る ③評価ノートを作成、ポイントをまとめることが出来る <p>実務者経験</p> <ul style="list-style-type: none"> 2006年 作業療法士免許取得 2006年－2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年－継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では新人、学生指導に従事 2018年－理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年－臨床実習指導者講習修了 2023年－教育修士(専門職)修了 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・評価の基礎 2 領域共通の評価:面接法・観察法 3 領域共通の評価法意識の評価及びバイタルサイン 4 領域共通の評価法:形態測定 5 領域共通の評価法:関節可動域測定 6 領域共通の評価法:筋力検査 7 領域共通の評価法:感覚・知覚検査 8 領域共通の評価法:筋緊張検査 9 領域共通の評価法:反射検査 10 まとめ 11 領域共通の評価法:刺青反射検査・バランス機能検査 12 領域共通の評価法:協調検査 13 領域共通の評価法:脳神経検査 14 実技まとめ 15 実技まとめ 16 実技試験・試験フィードバック 		
準備学習	実技を円滑に進めるために、担当者は授業前までに準備をしておく		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第4版 医学書院 著:能登真一ら、PT・OTのための臨床技能とOSCE【第2版】 金原出版 才藤栄一ら		
授業の形式 教育機器の活用	実 技 パソコン プロジェクター ゴニオメーター スケール 打臓器など		
成績評価の方法	パフォーマンス評価(ループリック評価) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	グループ間での協調学習を中心に進めていくので、自己にて知識の整理はおこなっておきましょう。授業に関しては、実習同様の身なりで臨むようにして下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	人間関係論	担当教官名	辻井 智.
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	人間関係 コミュニケーション 自己 集団		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 人間関係の基本概念や自己認識と協調関係等について習得します</p> <p>到達目標 社会人としてのマナー、コミュニケーションを理解し、実施できる 臨床で役立つマナー、コミュニケーションを理解できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた。 資格: 作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション、人間関係とは</p> <p>2 対人認知</p> <p>3 パーソナリティ</p> <p>4 コミュニケーションとチャネル</p> <p>5 感情</p> <p>6 葛藤と欲求不満</p> <p>7 ストレス</p> <p>8 援助行動・援助要請</p> <p>9 人間関係の理解</p> <p>10 カウンセリング</p> <p>11 モチベーション</p> <p>12 チームとリーダーシップ</p> <p>13 コーチング</p> <p>14 集団</p> <p>15 人間関係を難しくする障害／まとめ</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	配布資料、メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	人間関係は、自分自身がその時々の環境・立場により、求められたり働きかけたりする内容が異なります。自分自身を観察し、これからの行動へ役立ててください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	人間発達学	担 当 教 官 名	富松 衛
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必 修・選 択 の 別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	姿勢コントロール 身体的発達 運動発達 心理的発達		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 受胎から発生過程と各器官の発達の関連性などを習得します。</p> <p>到達目標 ①人間発達学の定義、関連用語を知り人間発達学の意義を説明できる ②胎児期からの発達の流れが理解できる</p> <p>実務者経験 2016年に作業療法士国家資格取得。作業療法士として、病院、就労継続支援B型、生活介護、放課後等デイサービス等高齢者、小児領域を問わず様々な臨床を経験。 現在は、作業療法士が運営する企業の事業戦略を主に担当。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 発達概論</p> <p>2 胎児期、乳児期の発達</p> <p>3 乳児期の発達</p> <p>4 乳児期の発達</p> <p>5 幼児期の発達</p> <p>6 幼児期、学童期の発達</p> <p>7 発達障害、脳性麻痺の基礎</p> <p>8 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	授業当日か翌日中に復習をしましょう		
教科書・教材等	「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版株式会社		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士として、どの分野でも必要な知識になります。初めて聞く単語も多い為、予習・復習を行いましょう。 国家試験、臨床の知識に活かしていく様に共に学んでいきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	文章の理解と表現Ⅱ	担当教官名	山田 涼子
対象学生	1 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	言語化 コミュニケーション力 記録・報告 視野拡大		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 文章を読み解く・まとめる・作文するためのポイントを学びます。</p> <p>到達目標 ①言葉を駆使し、自らの想いや考えを他者に伝える能力を習得する。 ②価値観の多様性を知り、多角的な物の見方を身につけて視野を広げる。</p> <p>実務者経験 25年以上、ライター・編集者として活動。取材を通して得たヒアリング力・洞察力・観察力・文章作成力を活かし、2009年から大学・専門学校・高等学校にて現代文・小論文などの指導を担当。社会人を対象としたビジネスライティング講座の講師も務める。 「自己と向き合い、自らの想いや考えを言語化して伝え、他者と共有すること」の重要性を問う指導を行う。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 夏季休暇課題発表 2 夏季休暇課題発表 3 他人の視座を学ぶⅣ(動画視聴) 4 ロジカルシンキングの考察① 5 ロジカルシンキングの考察② 6 ゲストスピーカー④ 7 反論の技術を学ぶ① 8 反論の技術を学ぶ② 9 ゲストスピーカー⑤ 10 セルフリベートの実践 11 グループディスカッション① 12 グループディスカッション② 13 ゲストスピーカー⑥ 14 ニューノーマルの考察 15 まとめ 語彙力確認テストの見直し、一年間の振り返り 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・使用テキストの予習復習(毎回小テストを実施) ・日常生活における言葉の意味調べの習慣化 ・自らの意見の明確化・言語化 		
教科書・教材等	「入学前から学べる！作業療法士のための漢字・熟語」		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材		
成績評価の方法	定期試験 70% ／ 平常点(出席率、小テストの成績、課題提出率) 30%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	<p>作業療法士を目指す上で、カウンセリングやリハビリテーションを通じた患者や家族とのコミュニケーションは必須です。また、医師をはじめとする周囲の医療従事者と円滑なチーム医療に取り組むためにも、自己発信力・情報伝達力・傾聴力などが求められます。本講義では、国家試験に対応する基礎的言語力はもちろん、様々な演習を通して「想いが伝わる」ために必要な総合的文章力の向上を目指します。</p> <p>「伝わらない」のは「伝えてない」ことを同だと肝に銘じて、相互に「伝わる」努力(観察、思いやり、譲り合い等)を常に心掛けてください。</p>		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	臨床実習Ⅰ(見学実習)	担 当 教 官 名	堂岡 悠理・学科専任教員
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	80時間
授業のキーワード	臨床にふさわしい態度・技能を習得する		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習指導者の管理下の下で、臨床で求められるマナーを習得し、実際の作業療法を理解します。</p> <p>到達目標 ①作業療法士が働く施設について説明する事ができる ②作業療法士の役割について説明する事ができる ③見学・経験した事を適切に記録する事ができる ④作業療法士に必要な知識を説明する事ができる ⑤地域包括ケアシステムの概要を説明できる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<p>【実習前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーション・レポート作成の習得 ・客観的能力試験 <p>【臨床実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度 ・作業療法対象患者とのコミュニケーション <p>【実習後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習報告会 ・客観的能力試験 ・個別面談 		
準備学習	日常的に挨拶、報告・連絡・相談などができるよう、意識的に行動して下さい。		
教科書・教材等	1年次で配布した、資料・教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実習 パソコン プロジェクター 検査器具		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士としての役割を理解し興味・関心を高めていきましょう。また、実習生としての立ち居振る舞いを学修し自己学習態度も身につけていきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野		
授 業 科 目 名	臨床心理学	担 当 教 官 名	住友 春美		
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	後 期		
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回		
授業のキーワード	精神障害 精神障害とライフサイクル 精神療法				
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 対象者の状況を理解・対応するポイントを心理学的観点から学びます。</p> <p>到達目標 ①精神における疾患の症状と治療について理解し、説明できる ②ライフサイクルにおける精神障害・心理社会的問題について理解し、説明できる。 ③精神療法について、その治療について理解し、説明できる</p> <p>実務者経験 臨床経験25年。大学の付属病院・精神神経科を経て、精神科・心療内科病院に所属。その後、現在、主として神経内科・精神科診療所に所属。心理学、臨床心理学に基づき、身心に疾患有する患者の心理面を対象として、心理検査、心理面接、集団精神療法にて疾患・病態のアセスメント、治療を行っている。その他、発達・能力・コミュニケーションに問題を有する身体障害者・知的障害者を対象に発達・能力をアセスメントし、その支援に関わる人にコンサルテーションを行っている</p>				
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 作業療法と臨床心理学の関わり、精神的健康、臨床心理学概論(歴史、現状) 2 心理検査、神経症とDSM診断体系、不安障害 3 身体表現性障害、解離性障害、適応障害 4 パーソナリティ障害、摂食障害、統合失調症 5 思考障害、依存症、気分障害、てんかん 6 睡眠障害、性障害、子どもの精神障害とその周辺 7 老化とその障害、精神障害とライフサイクル 8 精神療法 まとめ 9 定期試験・試験解説 				
準備学習	心理学で学んだ、感覚、記憶、学習、発達について、再度、併せて理解を深めておく。臨床心理学で学んだ疾患名と、その症状を理解しておく。各精神療法と、その内容を理解しておく。予習・復習を行うこと。				
教科書・教材等	医学書院 標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 臨床心理学				
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器				
成績評価の方法	定期試験(100%)				
担当教官から (履修にあたっての留意点)	傷ついた人と関わることの多い作業療法士を目指すにあたって、人の心理的側面にある生きにくさを理解するため、臨床心理学の知識は必要となります。本講義では国家試験に対応するための知識はもちろん、臨床のイメージが膨らむよう、臨床で関わるであろう症例についても具体的にお話したいと考えています。				

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	1 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	リハビリテーション 領域 疾患の基礎		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 リハビリテーションの基本概念とリハビリテーションの領域などと一般的なリハビリテーションの流れなどを習得します。</p> <p>到達目標 ①リハビリテーションの領域の説明ができる。 ②医学的リハビリテーションの分野が理解できる。 ③疾患に関してのリハビリテーションの留意点が説明ができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年～2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年～継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では様々な疾患を呈した患者を担当 2018年～理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年～臨床実習指導者講習修了 2023年～教育修士(専門職)修了</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 脳血管障害 3 神経筋疾患 4 末梢循環器疾患 5 整形疾患 6 内部疾患・悪性腫瘍 7 高齢者のリハビリテーション 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	教科書を読むなどの予習をして下さい		
教科書・教材等	教科書:リハビリテーション医学テキスト・配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	リハビリテーションとはいったい何をすることなのかを学びましょう。どのような領域があ、どのような方法で対象者の方にアプローチされているのかをグループ学習も取り入れながら考えます		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	1 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	リハビリテーションの定義 医療・社会福祉 関連法規		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 リハビリテーションの基本概念と関わる職種の概要などを習得します。</p> <p>到達目標 ①リハビリテーションの流れについて説明できる ②リハビリテーションの基本的な考え方を理解し説明できる。 ③医学的リハビリテーションの分野を理解し、説明ができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では地域連携など退院後サポートにも従事 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了 2023年-教育修士(専門職)修了</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション リハビリテーションの歴史</p> <p>2 リハビリテーションの定義と理念</p> <p>3 障害とその分類(ICIDH) (ICF)</p> <p>4 障害とその分類(ICF)</p> <p>5 リハビリテーションの分野</p> <p>6 医療従事者とチーム</p> <p>7 関係法規と保健医療福祉行政</p> <p>8 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	講義時に配布するレジメは、講義後に復習する事		
教科書・教材等	リハビリテーション医学テキスト		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士が活躍する領域を知り、主に医療と福祉のリハビリテーションの役割について理解を深めてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖生理学 I-1(内科系)	担当教官名	森嶋 祥之
対象学生	1 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	循環、呼吸		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 循環・消化・排泄・代謝に関する器官と構造等について学ぶ</p> <p>到達目標 構造と機能の基本がわかること</p> <p>実務者経験 卒業後国家資格を取得 1978年 臨床検査技・薬剤師 1978年～2021年 近畿大学病院・中央臨床検査部勤務 主な著書:薬剤師のための基礎からの検査値の読み方</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション・総論</p> <p>2 生命現象と人体①</p> <p>3 生命現象と人体②</p> <p>4 血液①血液の組成と機能</p> <p>5 血液②赤血球、白血球</p> <p>6 血液③血小板</p> <p>7 血液④血漿、血液型</p> <p>8 小テスト</p> <p>9 心臓と循環①血液の循環、刺激電動系</p> <p>10 心臓と循環②血液の拍と血圧</p> <p>11 心臓と循環③心機能曲線、血圧の調節</p> <p>12 心臓と循環④静脈還流、臓器循環</p> <p>13 呼吸とガスの運搬①外呼吸・内呼吸、気道・肺胞、呼吸運動</p> <p>14 呼吸とガスの運搬②ガス交換とガス運搬、呼吸の調節病的呼吸</p> <p>15 まとめ</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	該当する教科書の箇所を読んでおくこと		
教科書・教材等	教科書(標準理学療法・作業療法 解剖学／生理学) パワーポイント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	サブテキストとしてpptを使用しますが、「生理学」の教科書も毎回必ず持参してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	解剖生理学Ⅱ-1(神経系)	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	神経系の構成 脳室系 神経系の発生 中枢神経系 脳の高次機能 興奮の発生 興奮の伝導・伝達		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法学の基礎となる人体の生命現象と正常構造およびその機能の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>到達目標 ①生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。 ②当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を受ける。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/神経系の区分と構成 2 隹膜と脳室系 脳脊髄液 3 神経系の発生 4 中枢神経系(総論) 5 脊髄 6 脳幹 7 小脳 間脳(視床と視床下部) 8 大脳皮質 9 脳の高次機能 10 大脳基底核と脳梁 11 辺縁系 12 細胞の構造と機能 13 静止電位と活動電位 14 興奮の発生と伝導 15 シナプスにおける興奮の伝達/まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学的内容の予習、当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域の概念の予習		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂 第5版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(100%) 定期試験にて知識の到達評価を行う。		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。ともすれば、暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習していって欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	解剖生理学III-1(運動系)	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	骨の形態 骨の構造と機能 リモデリング 骨の連結 関節の構造と機能		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法学の基礎となる人体の生命現象と正常構造およびその機能の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進めます。</p> <p>到達目標 ①生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。 ②当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得る事ができる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を受ける。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/骨格総論 骨の形態 2 骨の構造 血管と神経 3 骨の機能と骨の発生 4 骨のリモデリング 5 骨格各論 頭蓋 6 脊柱 7 胸郭 8 上肢の骨 ① 9 上肢の骨 ② 10 下肢の骨 ① 11 下肢の骨 ② 12 骨の連結 13 関節の構造と機能 14 頭蓋、脊柱、胸郭の連結 15 上肢・下肢の連結/まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学的知識、生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習が必要である。		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂 第6版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 骨模型 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(100%) 定期試験にて知識の到達評価を行う。		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。ともすれば、暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習していく欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため、予習、復習は必須条件である。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	基礎作業学 I	担 当 教 官 名	辻井 智
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	創作活動, 作業分類, 作業分析		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法の基本的な思考過程を身近な作業活動を通して習得します。</p> <p>到達目標 作業療法の治療法で用いる主な活動を実施することができる。作業療法の理論と作業分類について理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた。 資格: 作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・基礎作業学とは何か 2 作業療法と作業について 3 作業の意味(感情・生活の構造化) 4 作業の意味(健康との関連性・作業の類型化) 5 作業療法の展開(作業の適用と分類・作業分析) 6 上肢作業 7 上肢作業(作業分析) 8 物品を使った上肢作業 9 物品を使った上肢作業(作業分析) 10 作業遂行分析の理論と方法 11 作業的存在 12 作業とライフステージ① 13 作業とライフステージ② 14 作業とライフステージ③ 15 作業とライフステージ④・まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	標準作業療法学 基礎作業学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業活動を通して、「楽しむこと」「試行錯誤すること」「作業過程でどのような身体・精神機能が用いられるか考えること」「作業過程をどう対象者に提供できるか考えること」を期待します。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	基 础 分 野
授 業 科 目 名	健康科学	担 当 教 官 名	辻井 智
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	健康管理、生涯スポーツ		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 健康の定義、健康を維持するための条件、方法等について習得します。</p> <p>到達目標 ①日常生活活動と身近なスポーツやレクリエーションの種目の類似点を理解する。 ②気軽にできる体操や余暇活動を理解する。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた。 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、健康問題と健康増進 2 健康管理 3 運動の生理学・生化学的基礎 4 健康・体力づくりのための運動処方 5 ウエイトコントロール 6 生涯スポーツの必要性 7 運動・スポーツ活動と安全 8 体力測定方法と評価、まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	スポーツ・健康科学概論テキスト、配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	運動を治療手段へ応用するためには、実践できることが条件です。いろいろな活動を用いることができるよう、楽しんで参加してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	健康科学演習	担当教官名	辻井 智
対象学生	1 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	健康, 介護予防, 運動指導, 環境		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法現場で健康を維持する体の使い方等を習得します。</p> <p>到達目標 ①演習へ参加し、主な種目を体験する。 ②リーダーとして進行することを体験する。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営、レクリエーションの企画・リーダー役を経験した。 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション, 介護予防 2 転倒予防運動 3 認知症予防運動 4 肥満者へ運動指導 5 関節痛のある方へ運動指導 6 筋力低下者への運動指導 7 健康チェック 8 環境と健康,まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	スポーツ・健康科学概論テキスト, 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン, プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	運動を治療手段へ応用するためには、実践できることが条件です。いろいろな活動を用いることができるよう、楽しんで参加してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法概論	担 当 教 官 名	谷村 浩子、他
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	作業療法、分野と役割、各教員の専門性		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 日本の作業療法の目的・立場・役割を理解して、これから4年間で学ぶ過程と目標を理解します。</p> <p>到達目標 ①作業療法の概要を説明できる。 ②作業療法士の役割を説明できる。 ③作業の意味と目的を説明できる。</p>		
	実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010 認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 臨床現場では整形外科疾患、脳外科、神経内科、癌など多岐にわたる症例の診療を経験。2012年より現職。 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長		
講義計画・内容	1 オリエンテーション・作業の意味 2 作業療法の歴史、理学療法士及び作業療法士法について 3 作業療法の原理と関連する予備知識 4 作業療法士に求められる資質と倫理 5 作業療法士の実践現場と働き方 6 作業の治療的適用 7 日本作業療法士協会とその役割・世界作業療法士連盟とその役割 8 作業療法の実践課程 9 身体障害急性期分野における作業療法実践（谷村） 10 身体障害分野回復期における作業療法実践（岩井） 11 身体障害分野生活期における作業療法実践（西林） 12 発達過程分野における作業療法実践 13 高齢期分野における作業療法実践（堂岡） 14 精神障害分野における作業療法実践（松井） 15 作業療法士になるための過程・まとめ 16 定期試験・試験解説		
準備学習	特に必要ありません。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 スライド・プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士になるためには知識の習得だけでは不可能です。自分から発言して行動することが必要なので、講義だけでなくグループでの討議など自身の考えを発信でき人の意見も取り入れられるようになります。積極的に授業に参加してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	基 础 分 野
授 業 科 目 名	情報処理	担 当 教 官 名	深津 富栄
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	Word Excel PowerPoint タイピング アクセシビリティ プレゼンテーション キャリアデザイン		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 電子カルテ作成・発表のためWord・Excel・PowerPointの使用法を学びます。</p> <p>到達目標 ①Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高い文書が作成できる。 ②Excelを使用し、効率の良いデータの処理分析、目的に応じた適切な資料作成ができる。 ③PowerPointを使用し、見やすく説得力のあるスライドを作成する。 作成したスライドを使って、内容をわかりやすく発表することができる。 ④就職後のOA処理業務に役立てることができる。</p>		
実務者経験	<p>Microsoft オフィシャルトレーナー・IT系国家資格を取得し、ICT企業にてコンテンツ制作・システム管理・IT技術研修を担当。</p> <p>2000年より大学・滋慶学園で情報処理・MOS対策授業の教鞭を取り、約1万人近くを合格に導いています。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション Windows基礎 Word①</p> <p>2 Word② 小テスト①</p> <p>3 Word③</p> <p>4 Word④</p> <p>5 Excel①</p> <p>6 Excel② 小テスト②</p> <p>7 Excel③</p> <p>8 Excel④</p> <p>9 Excel⑤ Excel課題</p> <p>10 PowerPoint①</p> <p>11 PowerPoint②</p> <p>12 PowerPoint③</p> <p>13 PowerPoint④</p> <p>14 PowerPoint⑤</p> <p>15 PowerPoint⑥ プレゼンテーション発表会 (PowerPoint課題)</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	パソコンの基本操作(入力・保存方法など)を確認しておいてください。		
教科書・教材等	よくわかる Word2021 & Excel2021 & PowerPoint2021 FOM出版		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 1回目授業持ち物:テキスト 筆記用具		
成績評価の方法	定期試験:70% 小テスト・課題:Word, Excel, PowerPoint (作成・プレゼンテーション発表):30%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	Word・Excel・PowerPointは実務で必須のアプリケーションソフトです。適正かつ効率的に使いこなせるよう、スキルを身につけていきます。またタイピングも取り入れ、一般社会のOA処理業務でも効率的で質の良い資料作成が出来るように実習していきます。自身で効率よく操作が出来るよう積極的に取り組んでください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	基 础 分 野
授 業 科 目 名	心理学	担 当 教 官 名	住 友 春 美
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必 修・選 択 の 別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	感覚・知覚、記憶、知能、学習、感情、欲求・適応、パーソナリティ、発達		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 心理学の基本概念や青年・障がい者心理について習得します。</p> <p>到達目標 ①感覚・知覚、記憶、思考・判断、感情、性格、さらにその発達と社会的関係などの心的過程について理解し、説明できる。 ②心の作用の結果としてあらわれる反応や行動、その反応や刺激を引き起こす刺激や環境について理解し、説明できる。 ③ライフサイクルにおける心理的特徴・心理的問題を理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 臨床経験25年。大学の付属病院・精神神経科を経て、精神科・心療内科・神経内科、福祉施設に所属。心理学、臨床心理学に基づき、心身に疾患を有する患者、発達・能力・コミュニケーションに問題を有する障害者を対象に、心理検査、心理面接、集団精神療法にて、疾患・病態のアセスメント、治療を、また、その支援者にコンサルテーションを行っている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・心理学とは 2 感覚・知覚① 3 感覚・知覚② 4 記憶と忘却① 5 記憶と忘却② 6 知能① 7 知能② 8 学習 9 感情・情動・気分 10 欲求・適応・不適応① 11 欲求・適応・不適応② 12 パーソナリティ 13 社会と集団 14 発達 15 ライフサイクルと心理的特徴・心理的問題・まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	心理学で学ぶ心的過程について、その内容を理解しておく。予習・復習を行う。		
教科書・教材等	医学書院 系統看護学講座 基礎分野 心理学		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士を目指すにあたり、人間一般の心的過程についての基本的知識は不可欠です。自己理解と対応について知り、援助する相手を理解し、適切に思いを巡らせる事を目指し、お話しします。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	地域作業療法学 I	担 当 教 官 名	堂岡 悠理
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	地域作業療法 多職種連携 地域包括システム		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 地域リハビリテーションの基本概念と制度、関連職種などについて習得します。</p> <p>到達目標 ①社会生活資源を理解し説明できる ②地域での作業療法士の役割について説明できる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の生活と地域作業療法—地域リハビリテーションの歴史と概念 2 地域の生活と地域作業療法—地域社会 地域構造 社会資源 3 地域の生活と作業療法—地域で求められる作業療法士 4 作業療法士がかかわる関連法規・制度—社会保障制度 5 地域作業療法で必要な知識—地域における連携 チームアプローチ 6 地域作業療法で必要な知識—地域作業療法の評価と介入計画 7 各事業所での作業療法士の役割 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業内容を理解するために、予習と復習を欠かさず行いましょう。		
教科書・教材等	作業療法学ゴールドマスター テキスト 地域作業療法学 [第2版]		
授業の形式 教育機器の活用	演 習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	地域作業療法は、地域住民の健康と福祉を支える重要な分野になります。専門用語や基本概念を学び、地域作業療法士の役割を学びましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	基 础 分 野
授 業 科 目 名	文章の理解と表現 I	担 当 教 官 名	山田涼子
対 象 学 生	1 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	インプット&アウトプット、思考・判断、共有・共感		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 用語の読み方・意味、文章を理解するためのポイント等を学びます。</p> <p>到達目標 ①一般教養レベルから医学用語まで、国家試験対策としての語彙について読み・書きのスキルおよび意味を習得する。 ②医療や社会の問題について考え、理解を深める。</p> <p>実務者経験 25年以上、ライター・編集者として活動。取材を通して得たヒアリング力・洞察力・観察力・文章作成力を活かし、2009年から大学・専門学校・高等学校にて現代文・小論文などの指導を担当。社会人を対象としたビジネスライティング講座の講師も務める。「自己と向き合い、自らの想いや考えを言語化して伝え、他者と共有すること」の重要性を問う指導を行う。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 自己分析①</p> <p>2 自己分析②</p> <p>3 ゲストスピーカー①</p> <p>4 自己分析③ 自己PR</p> <p>5 他人の視座を学ぶ I (動画視聴)</p> <p>6 他人の視座を学ぶ II (動画視聴)</p> <p>7 ゲストスピーカー②</p> <p>8 他人の視座を学ぶ III (動画視聴)</p> <p>9 社会問題の考察 I</p> <p>10 ゲストスピーカー③</p> <p>11 祇園祭について学ぶ</p> <p>12 動画作成</p> <p>13 社会問題の考察 II</p> <p>14 動画視聴・発表</p> <p>15 まとめ 語彙力確認テストの見直し</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	・使用テキストの予習復習(毎回小テストを実施)、時事問題に关心を持つ心掛け。		
教科書・教材等	「入学前から学べる！作業療法士のための漢字・熟語」		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚教材		
成績評価の方法	定期試験70%／平常点(出席率、小テストの成績、課題提出率)30%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士を目指す上で、カウンセリングやリハビリテーションを通じた患者や家族とのコミュニケーションは必須です。また、医師をはじめとする周囲の医療従事者と円滑なチーム医療に取り組むためにも、自己発信力・情報伝達力・傾聴力などが求められます。本講義では、国家試験に対応する基礎的言語力はもちろん、様々な演習を通して「想いが伝わる」ために必要な総合的文章力の向上を目指します。「伝わらない」のは「伝えてない」とこと同だと肝に銘じて、相互に「伝わる」努力(観察、思いやり、譲り合い等)を常に心掛けてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その 他
授業科目名	キャリア教育演習Ⅰ	担当教官名	西林賢裕・堂岡悠理
対象学生	1 年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	自己認識の促進 作業療法の基礎知識の習得 キャリア探求の第一歩		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 学校生活と学則、作業療法士に必要な礼儀、適切な報告・連絡・相談の方法、書類の書き方、基本的なコミュニケーション法について、体験を通じて習得します。</p> <p>到達目標 ①自身の興味や適性を理解し、作業療法士という職業への興味を深める。 ②自医療現場見学や基礎実習を通じて、医療現場の理解を深める。 ③医療現場見学や基礎実習を通じて、医療現場の理解を深める。</p>		
実務者経験	<p>2006年 作業療法士免許取得 2006年～2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年～現在も教育現場と臨床現場で研鑽 2018年～理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年～臨床実習指導者講習修了 2023年～教育修士(専門職)修了 修士論文:協調学習の実践とアンケート調査に基づく効果の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 キャリアゴールの短期目標設定 3 グループディスカッションでの意見交換 4 課題発見プロジェクト 5 ロールプレイングでのコミュニケーション演習 6 グループディスカッションでの意見交換 7 チームビルディング活動 8 チームビルディング活動 9 失敗体験を共有するセッション 10 問題解決の基本フレームワーク学習 11 問題解決の基本フレームワーク学習 12 グループディスカッションでの意見交換 13 先輩や卒業生とのキャリアトークイベント参加 14 基礎的なプロジェクト管理ツールの学習 15 年度末の振り返りと次年度の計画作成 16 自己の振り返り 		
準備学習	医療職を目指す学生として普段から立ち居振る舞いについて意識して行動しましょう。また普段から目標と計画を立てるなど見通しを立てて学習しましょう。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器 グループワーク(アクティブラーニング形式)		
成績評価の方法	レポート評価(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	1年を通じて作業療法士としての職域や役割について学びましょう。また、クラスメイトと積極的に行動し、同じ目標に向かって協同するスキルを身につけましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能治療学Ⅰ(中枢系)	担当教官名	西林賢裕・竹内章子
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	中枢性疾患の障害像 作業療法評価の項目 作業療法		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経(脳・脊髄)疾患の特徴、評価、治療の流れなどについて習得します。</p> <p>到達目標 ①中枢疾患の障害理解と治療手段が説明できる ②中枢疾患に対し適切な評価項目、目的が説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では急性期から維持期・地域分野を経験 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了 2023年-教育修士(専門職)修了</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 2 脳の構造 3 中枢神経系の構成 4 脳画像 5 脳神経検査 6 リスク管理 7 急性期リハビリテーション(総合評価) 8 急性期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 9 急性期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 10 回復期リハビリテーション(総合評価) 11 回復期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 12 回復期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 13 生活期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 14 生活期リハビリテーション(目標設定と治療の有効性) 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	脳卒中リハビリテーション(インターネット) 標準作業療法学身体機能作業療法学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対応する機会の多い疾患です。本講義では脳血管障害の概要、作業療法評価臨床での応用ができるレベルに達する。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	内科学	担 当 教 官 名	越智 雅晴
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	内科的疾患 病態 症状 診断 治療 合併症		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な内科疾患の機序・評価と治療などを学ぶ。毎回、生理学・解剖学・病理学などの基礎知識を復習しながら疾患の理解を深める。</p> <p>到達目標 ①代表的な内科疾患の病態、症状、合併症、治療について説明できる。 ②内科的な基礎疾患を有する患者の作業療法を行うに当たって注意すべき点を把握し対応できる。</p> <p>実務者経験 平成2年度から現在まで、京都市児童福祉センター医師として、障害のある児童や成人の診療とりハビリテーションに携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション／内科学総論:診断治療のすすめ方(例:高血圧症) 2 循環器疾患①:心臓のポンプ機能と心不全 3 循環器疾患②:心臓の電気生理と心電図、不整脈 4 循環器疾患③:虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)、心筋症 5 循環器疾患④:心音、心臓弁膜症、血管疾患など 6 呼吸器疾患①:呼吸機能と換気障害(閉塞性、拘束性) 7 呼吸器疾患②:肺炎、呼吸音、呼吸不全、換気異常と酸塩基平衡 8 血液免疫疾患①:貧血症、血液凝固異常、免疫システム 9 血液免疫疾患②:白血球疾患、免疫不全症、アレルギー疾患、膠原病 10 肝胆脾疾患:ウイルス肝炎、胆石症、脾炎など 11 代謝栄養疾患:糖尿病、脂質異常症、痛風、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症など 12 内分泌疾患:下垂体、甲状腺、副腎、副甲状腺疾患など 13 消化管疾患:食道胃疾患、腸疾患、イレウス 14 腎泌尿器疾患:腎不全、慢性腎臓病、腎炎など 15 感染症、まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	解剖学、生理学、病理学など基礎医学の復習		
教科書・教材等	標準理学療法・作業療法専門基礎分野内科学、教官作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 教官作成スライドなど		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	臨床内科学の学習は、解剖学・生理学・病理学の応用です。各疾患の病態を把握するためには、これらの基礎医学の知識が必須です。講義では常に基礎的な事項を振り返りながら話を進めていきます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	画像診断学	担当教官名	岩井 有香
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	脳血管疾患 骨関節疾患 内部疾患		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 画像の読影は作業療法士が適切な治療を行うために必要となる予後予測を立てる際に欠かせない知識です。脳血管障害、骨関節疾患はもちろん、循環器・呼吸器疾患の画像の診方について学びます。</p> <p>到達目標 ①脳のCT、MRI画像を読影でき、予後予測にいかすことができる。 ②骨折や関節症などのレントゲン画像やCTの読影ができ、予後予測・治療にいかすことができる。 ③循環器・呼吸器のレントゲン画像やMRIの読影し、病状の理解ができる。</p> <p>実務者経験 2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、脳画像のみかた(正常) 2 脳画像のみかた(脳梗塞、脳出血) 3 脳画像のみかた(正常圧水頭症、硬膜外血腫) 4 運動器の画像のみかた 5 骨折の画像(レントゲン、CT) 6 関節症、RA、脊椎、脊髄(等)の画像のみかた 7 循環器・呼吸器のX線画像、腹部のMRI画像 8 総まとめ、国家試験問題演習 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	骨・脳・臓器の基礎知識(解剖学)と画像の予習、復習		
教科書・教材等	PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 国試画像問題攻略 第3版 PT・OTのための画像のみかた 第2版 改訂第2版 運動療法に役立つ単純X線像の読み方		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器使用、教科書、配布資料		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	今後の臨床業務で、対象者に基づいた作業療法を提供するために、画像を読影し、症状・障害の予測を立てられるようになります。そのためには、習得済みの解剖学等の基礎的知識の予習と授業後の復習が必須となります。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	救 急 医 学	担 当 教 官 名	神 納 光 一 郎 / 金 村 諭 司
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必 修・選 択 の 別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	チームアプローチ 医療 福祉 連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法士の活躍範囲が拡大しており、緊急を要する病態や疾患・外傷への適切な対応が必要とされています。本科目では前述の状態の基礎的な知識を学び、心肺蘇生・応急処置について学びます。</p> <p>到達目標 ① 救急医療体制について説明できる ② 救急病態生理(生体の機能的変化)について説明できる ③ 救急症候(自覚症状と他覚的所見)について説明できる ④ 心肺蘇生・応急処置の方法を説明できる</p> <p>実務者経験 座学担当: 神納 光一郎 医師、救急医療に28年間従事する 実技担当: 金村 諭司 32年の消防経験(H7.救急救命士)</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、救急医学を学ぶ意義 呼吸系(呼吸不全、低酸素症、呼吸困難) 2 救急医学の基礎知識 循環系(ショック、循環不全、不整脈) 3 救急医学の基礎知識 神経系(意識障害、麻痺、痙攣、頭痛) 4 救急医学の基礎知識 外因性疾患(外傷、異物、中毒、環境障害) 5 救急医療体制について 6 応急処置・心肺蘇生の方法(演習) 心肺蘇生 7 応急処置・心肺蘇生の方法(演習) 応急処置 8 応急処置・心肺蘇生の方法(演習) 実技・まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	次回予定を伝えるので、その職種についてあらかじめ定義を調べておくこと。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演 習		
成績評価の方法	定期試験 50% 実技試験 50%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	自分の目の前の患者に急変が起こった時に、できるかぎり適切な処置ができるようになることを目指してください。緊急時に実際に行動できることが必要なので、実技を行います。指導に従って「やってみる」→「できる」ことを実践しましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	研究法Ⅰ	担当教官名	谷村 浩子
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	作業療法研究 倫理規定と手続き 献力カード		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法に必要な研究の基礎を習得します</p> <p>到達目標 ①作業療法士が研究する意義を説明できる ②作業療法研究における倫理規定を説明できる ③作業療法に関する文献を理解し、まとめることができる</p>		
	<p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 学会長の経験も豊富である。作業療法士協会の事例登録制度A審査員、学会の演題審査に長年携わる。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 作業療法における研究の意義・研究倫理</p> <p>2 論文の種類 論文の検索 論文の構成</p> <p>3 統計の基礎 用語の説明 標準偏差、偏差値、尺度について</p> <p>4 感度と特異度 質問紙の作成の方法</p> <p>5 簡単な統計学的検定の方法</p> <p>6 若きクリエーター展 発表準備</p> <p>7 若きクリエーター展 発表準備</p> <p>8 若きクリエーター展 発表準備</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
	特に必要ありません。若きクリエーター展の準備も行います		
教科書・教材等	文献検索、配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 プロジェクター・スライド		
成績評価の方法	定期試験(60%) 若きクリエーター展への取り組み(40%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	授業中に論文を読み、まとめる自分で文献を検索するなど自分で思考して行動する形式です。結果はすべて提出となります。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	作業療法評価学Ⅲ-1	担 当 教 官 名	堂岡 悠理・富松 衡
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	認知 ボディーイメージ 遊び 感覚統合 発達評価 高齢者機能評価		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に認知・精神・発達障害分野で多用する評価法の知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①人間の発達段階について理解することができる。 ②発達障害を理解し治療プログラムを理解することができる。 ③高齢者機能の評価について項目を列挙することができる。 ④各機能の評価について説明することができる。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生活行為向上マネジメント(MTDLPとは プロセス インテーク) 2 生活行為向上マネジメント (生活行為課題分析シート作成) 3 高齢者機能評価(身体機能検査・筋緊張検査)MAS 4 高齢者機能評価(上肢機能検査) STEF 5 高齢者機能評価(協調性・姿勢反射) 6 高齢者機能評価(摂食・嚥下機能検査) QOL/COPM 7 高齢者機能評価(排泄機能検査) まとめ 8 オリエンテーション・乳幼児期の成長 9 学童期の成長 10 感覚統合とは何か 11 遊びの実際 12 遊びの実際 13 症例検討会・制作 14 症例検討会・制作 15 症例検討会・発表・まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	事前に教科書や資料を確認し、内容を把握しておいてください		
教科書・教材等	標準作業療法学 作業療法評価学		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対象者の問題点・強みを同時に評価し、治療に結びつけられるようにしましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法評価学Ⅲ-2	担 当 教 官 名	富松 衛・堂岡 悠理
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	発達 感覚統合 高齢者機能評価		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に認知・精神・発達障害分野で多用する評価法の知識と方法、解釈について実践を通して学びます。</p> <p>到達目標 ①こどもの特性を理解し遊びを通して感覚統合を学ぶことが出来る ②高齢者機能評価の解釈ができ、問題点抽出、プログラム立案に結び付けられる。</p> <p>実務者経験 富松衛:2016年に作業療法士国家資格取得。作業療法士として、病院、就労継続支援B型、生活介護、放課後等デイサービス等の臨床を経験。 公的機関・学校機関と協力し、社会生活への適応を支援する業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 発達障害 3 感覚統合とは 4 遊びの実際 5 症例検討・制作 6 症例検討・制作 7 症例検討・発表 8 症例検討・発表・まとめ 9 生活行為向上マネジメント（生活行為アセスメント演習シート作成） 10 生活行為向上マネジメント（生活行為向上プラン演習シート作成） 11 高齢者機能評価（身体機能評価・筋緊張検査）MAS 12 高齢者機能評価（上肢機能検査）STEF 13 高齢者機能評価（協調性・バランス検査） 14 高齢者機能評価（摂食・嚥下機能検査）QOL/COPM 15 高齢者機能評価（排泄機能検査）まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業当日か翌日中に復習をしましょう		
教科書・教材等	感覚統合の発達と支援 A・ジーン・エアーズ 標準作業療法評価学		
授業の形式 教育機器の活用	実 技 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	ループリック評価での採点 実技試験(50%) レポート評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	1年生で学んだ人間発達学の知識を使って、こどもたちの支援の実際を学んでいきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	社会福祉論	担 当 教 官 名	和 泉 亮
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	日本の社会福祉の基本理念,生活保護法,児童福祉法,障害者自立支援法,高齢福祉と介護保険法,地域福祉		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法士に必要な社会福祉の制度について習得します。</p> <p>到達目標 ①日本の社会福祉の基本概念を説明できる。 ②日本の社会福祉制度の種類を説明できる。 ③日本の社会福祉制度と作業療法の関係性を説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 社会福祉の定義 2 関連法規と行財政,ソーシャルワークの理解 3 最低生活保障と生活保護 4 児童福祉から家庭福祉へ 5 障がい者の自立と福祉 6 高齢者の生活と福祉 7 地域福祉推進と地域共生社会への展望 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	次回の項目の教科書を一読すると理解が深まります。		
教科書・教材等	大久保秀子,社会福祉とは何か(第4版),配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 プロジェクター・スライド		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	確実に暗記する必要がある科目です。暗記しやすくなるように歴史や社会背景を理解する意識をもって受講してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	小 児 科 学	担 当 教 官 名	越智 雅晴
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	成長発達 小児保健 健全育成 先天異常 小児神経筋疾患 発達障害		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な小児疾患の機序・評価と治療などを学ぶ。小児の健常な成長・発達および成長・発達を阻害する疾患の成り立ちと病像について学習し、加えて小児保健の重要性についても学習する。</p> <p>到達目標 ①小児の成長・発達・生理について基本的なことを説明できる ②発達の障害をきたす原因について理解し説明できる ③作業療法を行うに当たって、患児の症状・特性を把握し適切に対応できる。</p> <p>実務者経験 平成2年から現在まで、京都市児童福祉センターの医師として、障害のある児童の診療とりハビリテーションに携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、小児の成長発達、小児保健、小児診療の特異性 2 子どもの発達と障害：健常児の姿勢運動発達、脳性麻痺、知的障害 3 新生児・未熟児疾患、周産期の異常 4 先天異常：染色体異常症、先天奇形症候群、先天性代謝異常症 5 小児の神経筋疾患：中枢神経系の奇形、神経皮膚症候群、脳腫瘍など 6 小児の運動器疾患：脊髄疾患、筋疾患、末梢神経疾患、先天性骨疾患 7 小児の痙攣性疾患：てんかん、熱性けいれん 8 小児の発達障害：自閉スペクトラム症、注意欠如多動症 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	人間発達学、解剖学、生理学などの復習		
教科書・教材等	標準理学療法・作業療法専門基礎分野小児科学、教官作成資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 教官作成スライドなど		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	小児分野の作業療法を目指している人は、小児科学を学ぶことは必須です。子どもの成長・発達や子どもの病気についての知識を習得することは、将来色々な場面で役に立つと思います。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	神經内科学	担 当 教 官 名	山脇 昌
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	代表的な神経内科疾患		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な神経内科疾患の機序・評価と治療などを習得します。</p> <p>到達目標 ①神経系の解剖生理学の復習すると同時に、正常な機能の破綻がなぜ脳卒中、高次脳機能障害、認知症、神経筋変性疾患の症状として出現するのかを説明でき、診断、治療の概略を説明できる。</p> <p>実務者経験 東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究・実習、チーチャー制に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で10年間 解剖学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育経験が豊富である。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、末梢神経(神経、運動神経、感覚神経、自律神経など) 2 末梢神経(神経、運動神経、感覚神経、自律神経など) 3 特殊感覚(視覚) 4 特殊感覚(聴覚) 5 中枢神経(解剖、機能局在、脳動脈、伝導路など) 6 中枢神経(解剖、機能局在、脳動脈、伝導路など) 7 脳卒中(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血) 8 脳卒中(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血) 9 脳卒中(脳梗塞、くも膜下出血) 10 高次脳機能障害(優位半球障害、劣位半球障害) 11 認知症(アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症) 12 神経筋変性疾患(パーキンソン病、多発性硬化症) 13 神経筋変性疾患(筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症) 14 神経筋変性疾患筋(筋ジストロフィー、重症筋無力症) 15 まとめ、試験前問題演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	復習中心に学習する。		
教科書・教材等	独自作成資料を中心に行う。参考書: 医学書院「神経内科」		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 原則対面パワポ授業 状況によりMSチームズを使用した遠隔授業		
成績評価の方法	原則対面試験 状況によりMSチームズを用いた課題提出		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	授業の区切りごとに行うおさらい穴埋めを利用して、重要ポイントをしっかりと理解すること、演習問題の正解肢の丸暗記をする癖だけはつけないようにすることが大切です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能治療学Ⅱ(運動・内部系)	担当教官名	岩井有香・谷村 浩子
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	身体障害のOT 脊髄損傷 骨折 腱損傷 烫傷		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 運動器(骨・関節・筋肉)や内部疾患(循環器、呼吸器等)疾患の特徴と評価、治療の流れなどの知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①脊髄損傷の治療の評価と積累の概要を説明できる。 ②上肢の骨折や腱損傷などの外傷に対する治療と評価の概要が説明できる。 ③外傷後の拘縮に対する評価や治療について説明できる。</p> <p>実務者経験 岩井 2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。 谷村:1985年作業療法士免許取得 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 身体障害の治療手段:関節可動域訓練 (谷村) 2 身体障害の治療手段:筋力強化訓練、知覚再教育(谷村) 3 脊髄損傷:概要、損傷型 (谷村) 4 脊髄損傷:高位レベルごとの特徴と治療(谷村) 5 脊髄損傷:高位レベルごとの特徴と治療(谷村) 6 脊髄損傷 頸椎症 (岩井) 7 拘縮の評価と治療 (谷村) 8 拘縮の評価と治療 物理療法の概要 (谷村) 9 上肢の骨折の治療 (岩井) 10 上肢の骨折の治療 (岩井) 11 上肢の骨折の治療 (岩井) 12 腱損傷に対する治療(谷村) 13 腱損傷に対する治療(谷村) 14 烫傷に対する治療 (谷村) 15 まとめ、国家試験問題演習 (谷村) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	運動学Ⅰ 解剖学 特に筋の作用 支配神経についての復習をしておくこと		
教科書・教材等	身体障害作業療法学 その他授業プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義 教科書 講義資料		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	外傷に対する身体障害は臨床で遭遇することも多い、国家試験問題に出されることが多い分野です。OTとしての基本的な知識になりますので十分な予習と復習を行って下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	精神障害治療学Ⅰ	担 当 教 官 名	銀山 章代
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	精神障害作業療法・評価から治療の流れ・疾患別作業療法		
講義計画・内容	授業の概要 教科書に沿って、精神科領域の作業療法の評価・治療の流れを習得します。 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・精神科領域の作業療法の評価方法を理解できる。 ・精神科領域の疾患別の作業療法の治疗方法を理解できる。 ・症例を通じ、精神科領域の作業療法の流れを具体的に理解できる。 ・国家試験の過去問を介し知識の整理ができる 実務者経験 精神科病院で約20年勤務。精神科作業療法・精神科デイケア・重度認知症デイケアに携わる。大学で約20年間作業療法教育に従事。基礎作業学・作業療法概論・集団演習・精神障害評価学・精神障害治療学等担当。現在、生活支援・就労支援施設で週3・5日勤務。専門学校非常勤講師(基礎作業学)		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 基礎概念(精神科医療) 2 基礎概念(基礎理論) 3 評価の流れと評価手段(情報収集・面接・検査) 4 評価をまとめる(目標設定) 5 治療構造(作業活動・集団・自己の利用) 6 治療・援助の場(精神科作業療法・デイナイトケア・重度認知症デイケア) 7 疾患別の対応(症状に合わせた対応)器質性精神障害 8 統合失調症に対する作業療法 9 気分障害に対する作業療法 10 神経症性障害・身体表現性障害・摂食障害・パーソナリティ障害 11 知的障害・発達障害・てんかん・認知症 12 地域生活支援(訪問看護・ACT・就労支援・関連法規・制度) 13 事例を通じての精神科作業療法の流れの理解(事例1) 14 事例を通じての精神科作業療法の流れの理解(事例2) 15 事例を通じての精神科作業療法の流れの理解(事例3) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	事前に教科書を読み、わからないところを見つけて、講義に臨むと理解が深まります。		
教科書・教材等	作業療法学ゴールドマスター テキスト 精神障害作業療法学		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	小テスト(20%)・定期試験(80%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	分からないことがあれば質問しあい、対話を通じて理解を深めあいましょう		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	地域作業療法学Ⅱ	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	2 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	作業療法士の役割 地域医療 他職種連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 地域リハビリテーションの作業療法士の関わりについて習得します</p> <p>到達目標 ①生活構造の視点と地域作業療法について説明できる ②身近な地域をもとに地域作業療法の実践を説明できる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している。 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 地域作業療法の枠組み 3 地域作業療法の枠組み 4 共生社会について 5 共生社会について 6 住環境と地域づくりを考察する 7 住環境と地域づくりを考察する 8 集団支援プログラムと地域づくり 9 集団支援プログラムと地域づくり 10 子育て支援 11 子育て支援 12 街づくり 13 街づくり 14 スポーツを介しての街づくり 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	標準作業療法学専門分野 地域作業療法学 第4版		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚教材使用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	講義では地域医療や医療福祉で活躍する作業療法士の講師をお招きし経験談や取り組みを紹介していただきます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	日常生活活動 I	担 当 教 官 名	西林 賢裕
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	基本動作 日常生活活動 ADL 身辺動作 ICF FIM		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 日常生活活動の基本概念と構成要素について習得します。</p> <p>到達目標 ①日常生活動作の捉え方と視点を理解する ②基本動作の活動と特徴を捉え作業療法との関係を理解する ③身辺動作の活動と特徴を捉え作業療法との関係を理解する</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年—2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年—継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では環境を含めた生活動作指導を実施 2018年—理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年—臨床実習指導者講習修了 2023年—教育修士(専門職)修了の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 日常生活活動の定義と分類 2 基本姿勢・基本動作について 3 セルフケアー食事動作について一 4 セルフケアー排泄動作について一 5 セルフケアー更衣動作について一 6 セルフケアー入浴食事動作について一 7 セルフケアー整容食事動作について一 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業を理解するために、普段の生活から基本動作・身辺動作について考えておく		
教科書・教材等	教科書:作業療法学 ゴールドマスター日常生活活動学		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解剖学・運動学の知識は必要です。授業で学んだことを実習に活かすことができるよう、普段の生活から日常生活活動を意識して学んでいきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	臨床実習Ⅱ(見学実習)	担 当 教 官 名	辻井 智・西林賢裕
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	80 時 間
授業のキーワード	情意領域 認知領域 精神運動領域 実習報告		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 地域包括ケアシステムの強化に資する高度人材医療人材の育成のために、臨床実習指導者の管理の下で、臨床で求められるマナーを習得し実際の作業療法を理解します。</p> <p>到達目標 ①実習生として適切な行動をとり常識的態度を身につける ②臨床現場を見学し、作業療法士としての役割を理解する ③臨床実習指導者のもと、評価手段を体験し身につける ④実習を通して、自己管理を行うことができるようになる ⑤地域包括ケアシステムの概要を説明できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>【実習前】</p> <p>実習オリエンテーション</p> <p>【臨床実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度 ・基本的臨床技能(評価) ・基本的臨床技能(介助) ・作業療法管理・運営・役割 <p>【実習後】</p> <p>実習報告会 個別面談</p>		
準備学習	実習生としての立ち居振る舞いについての復習、知識・技術の復習		
教科書・教材等	所有している教科書・資料等		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器(レポート作成・報告会等)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士としての役割を理解し興味・関心を高めてください。また、実習生としての立ち居振る舞いを学修し自己学習態度も身につけてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	臨 床 薬 学	担 当 教 官 名	北野 富美雄
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	統合失調症 パーキンソン病 リウマチ疾患 躁うつ病 重症筋無力症 神経症 癲癇 認知症		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床で多用する薬剤の効用と副作用などについて学びます。</p> <p>到達目標 薬物療法について説明できる。チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>実務者経験 25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務 臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科 病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬状況、副作用 の報告 情報提供。他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会での薬品情報提供(新薬 副作用 禁忌 注意点 等) 実務経験あり。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション リウマチ疾患:メトレキサート 生物的製剤 NSAIDs ステロイド</p> <p>2 パーキンソン病:ドパミン ドパミンアゴニスト 抗コリン剤 アマンタジン</p> <p>3 躁鬱病 : イミプラミン ミアンセリン SSRI SNRI</p> <p>4 認知症:ドネペジル リバステグミン ガランタミン レカネマブ</p> <p>5 癲癇 : バルプロ酸 フェノバルビタール フェニトイン</p> <p>6 神経症 : 抗不安剤 ロラゼパム 睡眠剤 トリアゾラム ニトラゼパム</p> <p>7 重症筋無力症 : 筋力増強 抗コリンエステラーゼ剤 ステロイド剤 脳卒中後の痙攣 : 筋弛緩 ボトックス注射(ボツリヌストキシン)</p> <p>8 統合失調症: 定型薬 クロルプロマジン ハロペリドール 非定型薬 SDA リスペリドン MARTA オランザピン</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	毎回 予習、復習が必要となる		
教科書・教材等	薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 医学書院 第13版		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 特に機器の使用はない		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解らないところがあれば、解るまで書いてほしい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	老年期障害治療学Ⅰ	担 当 教 官 名	堂岡 悠理
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	老年期症候群 高齢期 認知症		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 老年期障害の特徴、疾患の特徴、評価、治療の流れなどについて習得します。</p> <p>到達目標 ①高齢期障がいを分類し高齢期作業療法の考え方を話し合う。 ②高齢期の特徴および高齢者に多い疾患五つについて説明できる。 ③認知症について、基礎知識を表現、口述することができる。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している。 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期の一般的特徴:高齢期の生理的・身体的特徴) 2 高齢期の一般的特徴:老年症候群(低栄養 転倒 寝たきり) 3 高齢期の一般的特徴:老年症候群(褥瘡 廃用症候群 フレイル) 4 高齢期作業療法の実践課程 高齢期作業療法実践における生活の捉え方 5 認知症高齢者の作業療法:認知症のリハビリテーション 6 認知症高齢者の作業療法:支援場所による作業療法の実践(関わり) 7 認知症高齢者の作業療法:症例検討(軽度認知症高齢者のケース) 8 認知症高齢者の作業療法:実践と発表 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	高齢期作業療法についての事前学習		
教科書・教材等	高齢期作業療法学-第4版(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器(パソコン プロジェクター)		
成績評価の方法	レポート/発表(30%) 定期試験70%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	高齢期に特徴的な疾患について、その評価・治療について実践を通じて学びます。特に高齢期の社会問題を捉え作業療法士としての役割を学びましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基專)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	チーム医療論Ⅱ	担 当 教 官 名	辻井 智
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	チームアプローチ 医療 福祉 連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 他職種との関りを通してチーム医療と作業療法士の役割について習得します。</p> <p>到達目標 ①作業療法士が医療・福祉の現場で連携する、理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士の業務への理解を深めていきます。 ②模擬カンファレンスを通じ他職種連携の意味を説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 各専門職の概要と多職種連携について 2 リハビリテーションチームの概要 リハビリ専門職の役割 3 グループ検討(各職種の役割理解) 4 発表(各職種の役割理解) 5 チームで協力していくために必要な考え方① 6 チームで協力していくために必要な考え方② 7 症例検討 作業療法士の役割 領域 8 発表 (症例検討) 9 レポート課題 評価の解説 		
準備学習	関連職種の役割について理解できるよう、予習・復習をしておいてください。		
教科書・教材等	講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器(パソコン プロジェクター)		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士と他職種との役割を理解し意見をよく聞き理解すること同じ目的のリハビリテーション・ゴールへ作業療法士としてどのように協力できるか考えていきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	運動学Ⅱ	担 当 教 官 名	岩井 有香・谷村 浩子・南條千人
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	肩複合体 手関節 母指・手指の筋と運動 顔面・頭部の筋と運動 股・膝関節の筋と運動		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に上肢・体幹・下肢の運動に関する器官と仕組みについて習得します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①上肢と体幹の運動について説明することができる。 ②運動に必要な筋の働きや支配神経について説明できる。 ③股関節・膝関節の運動について説明することができる。 ④顔面と頭部の運動について説明することができる。 <p>実務者経験 岩井:2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 肩複合体の運動学 肩関節の構造と機能(岩井) 2 肩複合体の運動学 肩関節の構造と機能 関節運動(岩井) 3 肩複合体の運動学 関与する筋(岩井) 4 肩複合体の運動学 関与する筋(岩井) 5 手関節の構造と機能(谷村) 6 手関節・手指の構造と機能 関与する筋(谷村) 7 手指の構造と機能 関与する筋・伸展機構(谷村) 8 母指の構造と機能-まとめ(谷村) 9 上肢運動学 総まとめ(谷村) 10 顔面と頭部の筋(岩井) 11 股関節の運動学 (南條) 12 股関節の運動学 (南條) 13 膝関節の運動学 (南條) 14 膝関節の運動学 (南條) 15 総まとめ 国家試験演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	解剖学を十分復習しておくようにして下さい。		
教科書・教材等	理学療法・作業療法テキスト 運動学 講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 骨格模型 視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解剖学を十分復習して臨んで下さい。正常な人体の構造・機能に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。毎回の講義内容が膨大なものとなるため、予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしないようにしましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法総合演習Ⅱ-1	担 当 教 官 名	堂岡 悠理・西林 賢裕
対 像 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	障がい者スポーツ あそび 多様性		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 2年次に学習した基本の手技を応用できるよう実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①スポーツを手段とした作業療法を実践することができる。 ②遊びを通じて、作業療法の理論と実践を理解し、その治療的意義を深める。 ③多角的アプローチを通じて、作業療法の可能性と治療的効果を理解し、応用力を育む</p>		
	<p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床では総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属。 2020年 臨床実習指導者講習会終了 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会 2025年 中級パラスポーツ指導員取得</p>		
講義計画・内容	<p>①スポーツ ②こども ③医療・福祉</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 バリアフリー展・慢性期医療展</p> <p>3 バリアフリー展・慢性期医療展</p> <p>4</p> <p>5 【障がい者スポーツの発展と歴史について】 【きょうのあそびば】 6 作業療法において、ブ 7 レーパークを通じた遊び 8 が、心身の健康促進や社 9 会的交流の場としてどの 10 のできる支援や環境づくりの可能性に注目し、理 11 論と実践の結びつきを深 12 めます</p> <p>【園芸療法 × 作業療法】 園芸を通じて心と身体の 健康を促進する作業療法 の可能性を探る</p> <p>【動物 × 作業療法】 動物との協働がもたらす、作 業療法における支援と心身 の回復への可能性を探る</p> <p>【テクノロジー × 作業療法】 VR技術の活用の治療効果と リハビリプロセスに与える新 たな可能性を探る</p> <p>13 グループ間でのリフレクション</p> <p>14 まとめ</p> <p>15 発表</p>		
準備学習	授業前の課題に取り組んで予習をしておきましょう		
教科書・教材等	配布資料 標準作業療法学作業療法評価学		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士の職域や可能性について考えましょう。臨床現場で活用できる視点について体験を通じて学びましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 本)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	作業療法総合演習Ⅱ－2	担 当 教 官 名	山脇 昌
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	わかりやすく、丁寧に、ゆっくりと		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 2年次に学習した基礎知識を応用できるよう実践を通して学びます。</p> <p>到達目標 ①臓器別の主な病態について正常機能を含めて説明できる。 ②国試過去問レベルの問題演習で正解率7割以上を達成する。</p> <p>実務者経験 東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究・実習、チューター制に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で10年間 解剖生理学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育経験が豊富である。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、診察(問診、視診、触診、打診など) 2 診察(問診、視診、触診、打診など) 3 バイタルサイン、ショック、救命救急、AED 4 検査(血圧、心電図など) 5 検査(血液、エクス線、CT、MRIなど) 6 心不全(高血圧症、心筋梗塞・狭心症、不整脈など) 7 心不全(高血圧症、心筋梗塞・狭心症、不整脈など) 8 呼吸不全 9 肝不全 10 腎不全 11 代謝疾患(糖尿病、痛風、ビタミン欠乏症) 12 内分泌疾患 13 脳卒中、高次脳機能障害概論 14 認知症概論 15まとめ 試験直前問題演習 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	復習中心に学習する。		
教科書・教材等	独自作成資料を中心に行う。参考書:医学書院「内科学」		
授業の形式 教育機器の活用	演習 原則対面パワポ授業 状況によりMSチームズを使用した遠隔授業		
成績評価の方法	原則対面試験 状況によりMSチームズを用いた課題提出		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	授業の区切りごとに行うおさらい穴埋めを利用して、重要ポイントをしっかりと理解すること、演習問題の正解肢の丸暗記をする癖だけはつけないようにすることが大切です。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法評価学Ⅱ-1	担 当 教 官 名	西林賢裕・竹内章子
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	作業療法評価 身体障碍 基本技術		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に身体障碍分野で多用する評価法の知識と方法、解釈について実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①正確な評価の方法が説明できる ②評価実施のポイントが説明できる ③評価実施において留意点を理解し説明できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では新人、学生指導に従事 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了</p>		
講義計画・内容	<p>1 総論・関節可動域測定:肩関節 2 関節可動域測定:肩関節 3 関節可動域測定:前腕・手関節 4 関節可動域測定:股関節 5 関節可動域測定:膝関節・足部 6 関節可動域測定:頸部・体幹 7 関節可動域測定:手指 8 総論・徒手筋力検査:肩甲骨周囲筋 9 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 10 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 11 徒手筋力検査:股関節周囲筋 12 徒手筋力検査:股関節・膝関節周囲筋 13 徒手筋力検査:体幹筋 14 徒手筋力検査:手指 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	グループ間での情報の共有		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第4版-医学書院 新・徒手筋力検査法 ROM測定法 代償動作の捉え方と制動法の理解と実践		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン プロジェクター ゴニオメーター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	理解するには知識を積み重ねだけでなく、使える知識として臨床で活用出来るようにならねばなりません。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 本)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法評価学Ⅱ-2	担 当 教 官 名	西林賢裕・竹内章子
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	作業療法評価 身体障害 基本技術		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に身体障害分野で多用する評価法の知識と方法、解釈について実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①評価のポイントを理解し評価が実施できる ②留意点を意識しながら評価が実施できる ③無駄が少なく正確な評価が実施できる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では新人、学生指導に従事 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 関節可動域測定:肩関節 3 関節可動域測定:前腕・手関節 4 関節可動域測定:股関節 5 関節可動域測定:膝関節・足部 6 関節可動域測定:頸部・体幹 7 関節可動域測定:手指 8 総論・徒手筋力検査:肩甲骨周囲筋 9 徒手筋力検査:肩関節周囲筋 10 徒手筋力検査:股関節周囲筋 11 徒手筋力検査:膝関節周囲筋 12 徒手筋力検査:股関節・膝関節周囲筋 13 徒手筋力検査:体幹筋 14 徒手筋力検査:手指 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	グループ間での情報の共有		
教科書・教材等	作業療法評価学・改訂第4版-医学書院 新・徒手筋力検査法 ROM測定法 代償動作の捉え方と制動法の理解と実践		
授業の形式 教育機器の活用	実 技 パソコン プロジェクター ゴニオメーター		
成績評価の方法	パフォーマンス評価(ループリック評価) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	グループ間での協調学習を中心に進めていくので、自己にて知識の整理はおこなっておきましょう。授業に関しては、実習同様の身なりで臨むようにして下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	職業関連	担当教官名	辻井 智
対象学生	2 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	法制度、就労、雇用、フォローアップ		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 職業復帰に関する制度と流れなどについて習得します</p> <p>到達目標 ①職業関連活動のかかわりを理解し、説明できる ②作業療法士が知っておくべき制度や技術を理解し、説明できる ③各疾患の特徴に合わせた具体的な支援を理解し、説明できる</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた。 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 職業と文化 2 日本の産業 3 就労支援の理論 4 就労支援の作業療法の役割 5 関連職種・機関との連携 6 障害別就労支援①(身体障害) 7 障害別就労支援②(精神障害) 8 障害別就労支援③(高次脳機能障害), まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	資料の復習		
教科書・教材等	職業関連活動		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン、プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士の活躍の場は広がっています。職業復帰や社会参加の形は、個人により異なる目標となります。リハビリテーション・ゴールともかかわる内容なので興味を持ってほしい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	精神医学	担当教官名	松井 孝至
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	精神疾患 統合失調症 気分障害 神経症 摂食障害 依存症		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な精神疾患の機序・評価と治療など 当事者の体験談から疾患だけでなく個人をみる視点をもつ</p> <p>到達目標 ①精神機能と精神機能障害について説明できる。 ②各精神疾患の概要と治療法を説明できる。 ③精神科リハビリテーションの概要について説明できる。</p> <p>実務者経験 医療法人三幸会第二北山病院 作業療法士 松井孝至(精神科OT歴22年) 京都府作業療法士会理事 認知行動療法や認知の歪みなどの講演多数</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 精神医学概要、歴史、精神障害の成因</p> <p>2 精神機能と精神症状①</p> <p>3 精神機能と精神症状②</p> <p>4 精神機能と精神症状③</p> <p>5 統合失調症①</p> <p>6 統合失調症②</p> <p>7 気分障害①</p> <p>8 気分障害②</p> <p>9 神経症①</p> <p>10 神経症②</p> <p>11 摂食障害</p> <p>12 パーソナリティ障害</p> <p>13 認知症</p> <p>14 てんかん</p> <p>15 まとめ アルコール依存症 薬物依存</p> <p>16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	教科書(次回講義内容)に目を通しておいてください。		
教科書・教材等	作業療法学ゴールドマスター、テキスト 精神障害作業療法学・配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 PC・プロジェクター 等視聴覚機器使用 グループワーク		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	精神科の症状は目に見えにくいものなので「わかりにくい」と感じている学生も多いのではと思います。しかしどの分野であっても患者さんのしんどさ・生き辛さに寄り添い、共感していくことは一緒にです。症状を知ることはもちろん大事ですが、症状以上に「その人やその人の背景を知る!」という視点を忘れないでもらいたいです。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	病理学	担 当 教 官 名	高橋 玲
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	疾病の原因・疾病の成り立ち・病態		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な疾患の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的变化を学ぶ。</p> <p>到達目標 ①疾患における原因や病態メカニズムを理解し、病態の制御と治療に応用できる基礎的知識を学ぶ。 ②作業療法分野に関する疾患の全体像を深く理解する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>実務者経験 同志社女子大学名誉教授、京都大学医学部非常勤講師、愛媛大学医学部非常勤講師：機能形態学・病理学の授業担当歴30年、病理専門医、細胞診専門医、臨床検査専門医として医療に従事している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・病理学総論(1)炎症と創傷治癒 2 病理学総論(2)炎症と創傷治癒 3 病理学総論(3)感染・免疫 4 病理学総論(4)感染・免疫 5 病理学総論(5)腫瘍 6 病理学総論(6)腫瘍 7 病理学各論(1)循環器系の疾患 8 病理学各論(2)循環器系の疾患 		
準備学習	[レポート提出]各回の授業課題を各自で予習してから授業を受ける。		
教科書・教材等	標準病理学・作業療法学解剖学 標準病理学・作業療法学生理学(医学書院) Dr.レイの病理学講義(金芳堂)		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器・PC		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	医学専門用語が多く出てきます。あらかじめ専門用語や予習課題内容を予習してから授業に臨み、理解度を高めるようにしてください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	老年期学	担当教官名	堂岡 悠理
対象学生	2年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	高齢社会 老化 加齢による生理機能の変化		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 老年期に多発する疾患の機序・評価の視点などを習得します。</p> <p>到達目標 ①加齢による生理機能の変化について学び説明できる。 ②老年期に特徴的な疾病や機能低下について説明できる。 ③高齢者の生活環境や活動の特徴を説明できる。 ④終末期について説明する事ができる。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している。 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 高齢期と老年期 高齢期と作業療法 2 高齢社会:高齢化の進展/社会施策の変遷 3 高齢期の課題:高齢期とは/高齢者の生きがい/社会活動 4 高齢期の課題:高齢期の家族関係/現代社会と高齢者 5 社会制度:社会保険制度と社会保険医療福祉 6 高齢期の作業療法:高齢者を体験 7 高齢期の作業療法:体験から作業療法士の役割を考える 8 高齢期作業療法の役割と機能/目的 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	各授業計画の内容に関しては教科書で予習・復習をしてください		
教科書・教材等	標準作業療法学[専門分野] 高齢期作業療法学 第4版-医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	高齢社会とはどういう社会なのか、時代の変化に合わせて社会を理解し、必要な支援やサービスを学びましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	そ の 他
授 業 科 目 名	キャリア教育演習Ⅱ	担 当 教 官 名	西林 賢裕
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	専門分野への理解拡大 職業倫理とチーム医療の意識向上 現場経験の充実		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法士を目指すための学業への取り組み方、臨床現場で求められる行動やコミュニケーション法について、体験を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①作業療法の専門的知識や技術(評価方法、治療技術)の習得を目指す。 ②医療現場での倫理観と、チーム医療の重要性を学ぶ。 ③より実践的な実習を通じて、現場での対応力やコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>実務者経験 2008年 作業療法士免許取得 2008年～2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年～現在も教育現場と臨床現場で研鑽 2018年～理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年～臨床実習指導者講習修了 2023年～教育修士(専門職)修了 修士論文:協調学習の実践とアンケート調査に基づく効果の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 問題解決シミュレーション演習 3 ケーススタディ分析(実社会の事例を使用) 4 プロジェクト型学習(PBL)の導入 5 クリティカルシンキングを鍛えるディベート活動 6 フィールドワークでのデータ収集と分析 7 ビジネスシナリオを想定した役割演習 8 チームプロジェクトでのリーダーシップ体験 9 企業訪問やインターンシップの準備セミナー 10 タイムマネジメントスキルの応用講座 11 課題設定と具体的な解決方法の発表会 12 プレゼンテーションスキル向上トレーニング 13 応用的なITツールの活用法学習 14 年度末に成果発表とフィードバック受け取り 15まとめ 16 自己の振り返り 		
準備学習	医療職者を目指す学生として普段から立ち居振る舞いについて意識して行動しましょう。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器 グループワーク(アクティブラーニング形式)		
成績評価の方法	レポート評価(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	自分の考え方や価値観を振り返り、学習の仕方や将来像も見据え、計画的に行動できるようにしましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その 他																																
授業科目名	環境整備実習	担当教官名	辻井 智																																
対象学生	2 年	履修学期	通年																																
必修・選択の別	選択	授業回数	23 回																																
授業のキーワード	環境整備 環境適応 自助具 バリアフリー																																		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 障害者・高齢者に適した環境にすることを実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①健常者と障害者・高齢者の生活環境の違いを説明することができる。 ②主な福祉用具・自助具の名称や使用方法を理解し、説明できる。 ③日本の住環境の現状について理解する。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>																																		
講義計画・内容	<table border="0"> <tr><td>1 オリエンテーション</td><td>17 移動動作</td></tr> <tr><td>2 福祉用具総論 定義と歴史</td><td>18 歩行・歩容</td></tr> <tr><td>3 福祉用具と作業療法士の役割①</td><td>19 食事動作①</td></tr> <tr><td>4 福祉用具と作業療法士の役割②</td><td>20 食事動作②</td></tr> <tr><td>5 いろいろな福祉用具①</td><td>21 グループ発表①</td></tr> <tr><td>6 いろいろな福祉用具②</td><td>22 グループ発表②</td></tr> <tr><td>7 いろいろな自助具①</td><td>23 グループ発表③・まとめ</td></tr> <tr><td>8 いろいろな自助具②</td><td></td></tr> <tr><td>9 日本の住宅環境①</td><td></td></tr> <tr><td>10 日本の住宅環境②</td><td></td></tr> <tr><td>11 身体障害者の特徴①</td><td></td></tr> <tr><td>12 身体障害者の特徴②</td><td></td></tr> <tr><td>13 高齢者の特徴①</td><td></td></tr> <tr><td>14 高齢者の特徴②</td><td></td></tr> <tr><td>15 床上動作</td><td></td></tr> <tr><td>16 起居動作</td><td></td></tr> </table>			1 オリエンテーション	17 移動動作	2 福祉用具総論 定義と歴史	18 歩行・歩容	3 福祉用具と作業療法士の役割①	19 食事動作①	4 福祉用具と作業療法士の役割②	20 食事動作②	5 いろいろな福祉用具①	21 グループ発表①	6 いろいろな福祉用具②	22 グループ発表②	7 いろいろな自助具①	23 グループ発表③・まとめ	8 いろいろな自助具②		9 日本の住宅環境①		10 日本の住宅環境②		11 身体障害者の特徴①		12 身体障害者の特徴②		13 高齢者の特徴①		14 高齢者の特徴②		15 床上動作		16 起居動作	
1 オリエンテーション	17 移動動作																																		
2 福祉用具総論 定義と歴史	18 歩行・歩容																																		
3 福祉用具と作業療法士の役割①	19 食事動作①																																		
4 福祉用具と作業療法士の役割②	20 食事動作②																																		
5 いろいろな福祉用具①	21 グループ発表①																																		
6 いろいろな福祉用具②	22 グループ発表②																																		
7 いろいろな自助具①	23 グループ発表③・まとめ																																		
8 いろいろな自助具②																																			
9 日本の住宅環境①																																			
10 日本の住宅環境②																																			
11 身体障害者の特徴①																																			
12 身体障害者の特徴②																																			
13 高齢者の特徴①																																			
14 高齢者の特徴②																																			
15 床上動作																																			
16 起居動作																																			
準備学習	配布資料を確認しておいてください。																																		
教科書・教材等	配布資料																																		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器使用 グループワーク																																		
成績評価の方法	レポート課題100%																																		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	身近な日常生活環境の特徴を知り、当たり前に感じていることが個人により差があることを知ってほしい。バリアフリーや福祉用具などについても特徴を理解してほしい。																																		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	その 他
授業科目名	国際教育実習	担当教官名	辻井 智
対象学生	2 年	履修学期	通年
必修・選択の別	選択	授業回数	23 回
授業のキーワード	海外 国際教育 医療制度		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 海外の作業療法を海外研修を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①海外で取り組まれている作業療法のプロセスについて説明することができる。 ②国内と国外の医療制度の違いを学修し、臨床実習に向けて知識の向上を図ることができる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた 資格:作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 17 グループディスカッション②</p> <p>2 医療用語学習(英語)① 18 グループディスカッション③</p> <p>3 医療用語学習(英語)② 19 グループディスカッション④</p> <p>4 海外における作業療法士の現状 20 グループ 発表・検討会①</p> <p>5 海外における作業療法士の展望 21 グループ 発表・検討会②</p> <p>6 国内・国外の作業療法の違い① 22 グループ 発表・検討会③</p> <p>7 国内・国外の作業療法の違い② 23 まとめ</p> <p>8 国内・国外の作業療法の違い③</p> <p>9 学校現場における作業療法①</p> <p>10 学校現場における作業療法②</p> <p>11 小児作業療法-理論と応用</p> <p>12 小児作業療法-感覚伝達処理</p> <p>13 高齢者作業療法①</p> <p>14 高齢者作業療法②</p> <p>15 高齢者作業療法③</p> <p>16 グループディスカッション①</p>		
準備学習	国外の作業療法実践を予習しておく。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器使用 グループワーク		
成績評価の方法	レポート課題100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	国際社会で活躍するために、国内と国外の作業療法実践の違いについて理解します。また、臨床現場で英語表記の医療用語にも対応できるように学習します。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	整形外科学	担 当 教 官 名	浦川 ひかり
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	外傷 变性疾患 スポーツ障害 リハビリテーション		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 代表的な整形外科疾患の機序・評価と治療などを習得します。</p> <p>到達目標 ①OTとして求められる知識や技能を説明できる。 ②整形外科疾患の概要を理解し説明できる。 ③対象者に適切なOTが実施できる。</p> <p>実務者経験 現在、尼崎中央病院、田中病院、よこい整形外科健康スポーツクリニックに勤務。脊椎疾患を中心に、広く整形外科疾患の診断・治療と臨床研究を行っている。以前、鳥取市医療看護専門学校で整形外科学の講師をしていた。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション 2 外傷① 3 外傷② 4 脊椎疾患・末梢神経① 5 脊椎疾患・末梢神経② 6 脊椎疾患・末梢神経③ 7 まとめ 8 関節疾患① 9 関節疾患② 10 手・スポーツ・小児疾患① 11 手・スポーツ・小児疾患② 12 その他① 13 その他② 14 まとめ 15 まとめ 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	骨・筋・血管・神経などの解剖を復習しておきましょう。各授業日の最初に前回分の復習テストを行いますので、前回の内容を復習をしておきましょう。		
教科書・教材等	病気がみえる 運動器・整形外科		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚教材		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	整形外科学の中には、作業療法士の国家試験でも多く出題され、実際に仕事をする中で日々必要となる知識が多く含まれています。理解を深めていきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 基 礎 分 野
授 業 科 目 名	薬理学	担 当 教 官 名	北野 富美雄
対 象 学 生	2 年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	医薬品 代謝系疾患 循環器疾患 呼吸器疾患 脳血管疾患 薬物依存 薬物療法 薬の薬理 副作用		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 一般な薬剤の役割、効用や副作用などについて習得します。</p> <p>到達目標 薬物療法について説明できる。チームワークの一員としてチーム医療に参画できる。</p> <p>実務者経験 25年間、八尾徳洲会総合病院で臨床薬剤師として勤務。臨床薬剤師(入院患者対象 内科 外科 脳神経外科 整形外科病棟)に従事。院内臨床カンファレンスでの入院患者服薬情報、副作用の報告 情報提供。他職種(医師 看護師 視能訓練士 言語聴覚士 作業療法士)研修会での薬品情報(副作用 禁忌 注意点 新薬 等の)提供。</p>		
講義計画・内容	<p>オリエンテーション</p> <p>1 代謝系疾患 I : 脂質異常症治療薬(メタボリックシンドローム、フィブラー系、スタチン系) 痛風治療薬(コルヒチン、NSAIDs、アロプリドール、プロペネシド)</p> <p>2 代謝系疾患 II : 骨粗鬆症治療薬(ビタミンD3、ビスホスホネート、SERM) 糖尿病治療薬(インスリン製剤、経口糖尿病薬、SU尿素、インクレチニン)</p> <p>3 循環器疾患 I : 狹心症(ニトログリセリン、Ca拮抗剤、β遮断剤) 心筋梗塞(モルヒネ アスピリン t-PA アルテプラーゼ)</p> <p>4 呼吸器疾患(閉塞性換気障害・気管支喘息・COPD・気管支拡張薬・ステロイド剤)</p> <p>5 薬物依存を起こす薬物(麻薬・向精神薬・睡眠剤・抗不安剤) など</p> <p>6 抗炎症剤(NSAIDs(解熱鎮痛剤)・ステロイド剤)</p> <p>7 循環器疾患 II (高血圧・降圧剤・交感神経抑制剤・ACE阻害剤・利尿薬・ARB)</p> <p>8 抗血小板剤 抗凝固剤 血栓溶解剤 t-PA アルテプラーゼ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	毎回 予習・復習が必要となる。		
教科書・教材等	薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 医学書院 第13版		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 特に機器の使用はない		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	解らないことがあれば、解るまで聞いてほしい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	基 礎 分 野
授 業 科 目 名	研究法Ⅱ	担 当 教 官 名	谷村 浩子
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	量的研究、質的研究、統計学の基礎、調査法の作成、実験研究の環境設定		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 実際の研究活動を通して、各種研究法、統計処理、報告方法を習得します。</p> <p>到達目標 ①目標別に適した研究方法を選択できる ②目的に合わせた統計方法を選択できる ③調査、検査等の結果を報告できる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 学会長の経験も豊富である。学会の演題審査に長年携わる。</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション・代表的な研究法と統計学の必要性、用語の説明 2 量的研究と統計学の基礎① 3 量的研究と統計学の基礎② 4 質的研究 5 調査研究と調査票作成 6 事例を通じた研究 7 実験研究と環境設定 8 SOAP法に基づく事例のまとめ方 9 臨床推論の進め方並びに結果の考察の道筋 10 研究計画と方法の検討 11 研究の実際 12 研究の実際 13 研究の実際 14 研究報告の実際 15 研究報告の実際 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	特に必要ありません		
教科書・教材等	文献研究、配布資料 教科書		
授業の形式 教育機器の活用	演習 プロジェクター・パソコン		
成績評価の方法	課題提出・発表50% 定期試験50%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	実践課題(作成・実験等)は〆切を守ってください。 グループで協力して課題に取り組む意識を持ってください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	作業療法管理学	担 当 教 官 名	辻井 智
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	マネジメント 管理 組織 情報		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床で必要な医療保険福祉の制度と作業療法の管理運営の必要性、方法論について習得します。</p> <p>到達目標 ①管理の基本である組織マネジメントを学び、チームの一員として求められる行動を理解する。 ②作業療法士に求められる業務内容と倫理・制度・キャリア開発について理解し、説明できる。</p> <p>実務者経験 作業療法士として一般病院・老人保健施設・訪問リハビリテーション・住宅改修など、臨床から在宅指導まで経験。 また、施設長としてリハビリテーション関連施設の管理運営を行ってきた。 資格：作業療法士・介護支援専門員・福祉用具プランナー</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 作業療法におけるマネジメント 2 組織の成り立ちとマネジメント 3 情報のマネジメント 4 作業療法と医療サービス 5 医療安全のマネジメント 6 作業療法業務のマネジメント(1)(人・物・経済性) 7 作業療法業務のマネジメント(2)(情報・時間・ストレス) 8 作業療法業務のマネジメント(3)(実践からの学び) 9 作業療法の役割と職域 10 作業療法士の職業倫理 11 作業療法をとりまく諸制度 12 作業療法臨床実習の理解と管理体制(1) 13 作業療法臨床実習の理解と管理体制(2) 14 作業療法士のキャリア開発(1) 15 作業療法士のキャリア開発(2)、まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	配布資料の復習		
教科書・教材等	作業療法管理学入門 第3版		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士の職域は広がるとともに、リハビリテーションチームとしても多くの他の職種の方と関わるようになった。制度の理解やマネジメントについても求められる時代となっており、その基本を理解してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専 門 分 野
授業科目名	身体機能治療学Ⅲ-2(中枢系)	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	3 年	履修学期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	評価計画の立案 治療計画の立案 動作・活動分析を通じた実践体験		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経(脳・脊髄)疾患の特徴に合わせた作業療法評価と治療の計画の立案と実践を体験を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①対象疾患における評価の選択・立案を行う事ができる。 ②問題点の抽出から目標の設定を行う事ができる。 ③目標に合わせた治療プログラムの立案を行う事ができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では様々な疾患を呈した患者を担当 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了 2023年-教育修士(専門職)修了</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 動作分析(基本動作分析から問題点の抽出と治療考察) 3 動作分析(基本動作分析から問題点の抽出と治療考察) 4 脳血管疾患に対しての評価・治療の選定 5 脳血管疾患に対しての評価・治療の選定 6 脳血管疾患に対してのプログラム立案・治療実施 7 脳血管疾患に対してのプログラム立案・治療実施 8 脳血管疾患に関してのまとめ 9 課題作成 10 神経難病に対しての評価・治療の選定 11 神経難病に対しての評価・治療の選定 12 神経難病に対してのプログラム立案・治療実施 13 神経難病に対してのプログラム立案・治療実施 14 神経難病に関してのまとめ 15 課題作成 		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	脳卒中リハビリテーション(インターメディア) 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学(医学書院) 動作分析 臨床活用講座(メジカルビュー)		
授業の形式 教育機器の活用	実 技 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	各項目のレポート(各50%) 合計100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	臨床場面で出会う事の多い疾患に対して、対象疾患への理解を深め、評価・問題点の抽出・プログラムの立案までを実際の症例や動画を見ながら思考を深めていきます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	日常生活活動学Ⅱ-2	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	3 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	疾患別の作業療法 動作分析 生活の改善		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 各種の代表疾患の日常生活活動の分析する方法を実践的に習得します。</p> <p>到達目標 ①疾患別のADLの特徴を理解し説明できる ②動作分析を理解し動作のポイントを絞ることができる</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年—2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年—継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では環境を含めた生活動作指導を実施 2018年—理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年—臨床実習指導者講習修了 2023年—教育修士(専門職)修了の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 脳血管障害の動作の捉え方・内容のリフレクション 3 脳血管障害のセルフケア事のMTDLP評価の作成 4 脳血管障害の作成したMTDLPの統合 5 神経筋疾患の動作の捉え方・内容のリフレクション 6 神経筋疾患のセルフケア事のMTDLP評価の作成 7 神経筋疾患の作成したMTDLPの統合 8 運動器疾患の動作の捉え方・内容のリフレクション 9 運動器疾患のセルフケア事のMTDLP評価の作成 10 運動器疾患の作成したMTDLPの統合 11 認知症の動作の捉え方・内容のリフレクション 12 認知症のセルフケア事のMTDLP評価の作成 13 認知症の作成したMTDLPの統合 14 評価のリフレクション 15 まとめ 16 解説 		
準備学習	講義と合わせての演習になります、しっかりと復習しておきましょう		
教科書・教材等	教科書:作業療法学 ゴールドマスター日常生活活動学		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	レポート課題(各25%)で評価		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	成績評価はレポートになります、提出期限ないでよろしくお願ひいたします。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	老年期障害治療学Ⅱ－2	担 当 教 官 名	堂岡 悠理
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	老年期治療 リスク管理 地域包括ケアシステム介護保険		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 老年期障害の特徴に合わせた作業療法評価と、治療の計画の立案と実践を体験を通じて習得します。</p> <p>到達目標 ①老年期で起こりやすい内部疾患について説明する事ができる ②老年期で起こりやすい整形疾患について説明する事ができる ③作業療法評価・介入方法について説明する事ができる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 下肢の構造(解剖学の復習) 2 大腿近位部骨折の概要・病態 3 大腿骨近位部骨折(急性期の作業療法士の役割①) 4 大腿骨近位部骨折(急性期の作業療法士の役割②) 5 大腿骨近位部骨折に対しての評価(分類 合併症) 6 大腿骨近位部骨折に対しての評価 (身体機能評価) 7 大腿骨近位部骨折に対しての評価(ADL 社会資源) 8 大腿骨近位部骨折(回復期の作業療法士の役割) 9 大腿骨近位部骨折(生活期の作業療法士の役割) 10 MTDLPを使用した症例検討(マネジメントシート) 11 グループディスカッション 発表と意見交換 12 呼吸器疾患・内部疾患の概要 13 呼吸器疾患・内部疾患 (作業療法 評価 治療) 14 呼吸器疾患・内部疾患 (作業療法のプロセス) 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業前に前回の内容を復習をして臨んでください		
教科書・教材等	標準作業療法学[専門分野] 作業療法評価学 標準作業療法学[専門基礎分野] 高齢期作業療法学 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実 技 視聴覚機器(パソコン、プロジェクター)		
成績評価の方法	レポート課題(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	高齢者に特徴的な疾患や症状について学び、臨床で必要な評価や治療の視点を習得します。演習を通じて知識・技術を高め国家試験にも対応しましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基準)	専門基礎分野
授業科目名	運動学Ⅲ	担当教官名	西林 賢裕・南條 千人
対象学生	3 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	膝・股関節の運動学 脊柱・体幹 姿勢・歩行 運動学習		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 主に下肢の運動、バイオメカニクス、運動学習などについて取得します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 関節、股関節、脊柱の運動の概要が説明できる ② 正常な姿勢と歩行、異常歩行について説明できる ③ 運動学習について説明できる ④ ハンドヘルドダイナモーター、表面筋電計を使用できる <p>実務者経験</p> <p>2006年 作業療法士免許取得 2006年 平成医療福祉グループ(地域領域・回復期・養成校) 2016年 滋慶学園グループ(鳥取校・京都校) 2018年 長期講習修了 臨床時には地域医療を中心に様々な疾患に対し関わり、養成校所属時は産学官連携にて障がい者スポーツに対して取り組み 2020年次の作業療法学会にて活動報告実施。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 膝関節の運動学(南條) 2 膝関節の運動学(南條) 3 足・足部の運動学(南條) 4 足・足部の運動学(南條) 5 脊柱・体幹の運動学(南條) 6 脊柱・体幹の運動学(南條) 7 姿勢・歩行 (南條) 8 姿勢・歩行 (南條) 9 姿勢・歩行 (南條) 10 運動学実習 (西林) 11 運動学実習 (西林) 12 運動学実習 (西林) 13 運動学習 (西林) 14 運動学習 (西林) 15 まとめ 国家試験演習 (西林) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	下肢・体幹の筋の支配神経・起始停止を見直しておくこと		
教科書・教材等	教科書・講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 骨格模型、視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	対象者の活動を理解する上で大変重要な知識となります。しっかり理解するようにして下さい		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	義肢装具学演習	担 当 教 官 名	谷村 浩子
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	義肢 装具 切断 適合判定 制度		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 義肢装具の意義と臨床で必要な制度、適合方法について修得します</p> <p>到達目標 ①各種義肢・装具の特徴を説明できる ②各種義肢・装具とOTの関連について説明できる ③各種義肢・装具の使い方や制度の概要適合判定などの評価を説明できる ④各種義肢・装具を使用したOTプログラムを立案できる</p> <p>実務者経験 1985年作業療法士免取得 2023年教育学修士 専門作業療法士(手外科)2010、認定ハンドセラピスト(2009) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職 2004年 第16回日本ハンドセラピィ学会 学術集会会長 2017年 第32回日本RAのリハビリ研究会 学術集会会長 2018年 第6回京都府作業療法学会 学術集会会長 2021年 第9回中部日本ハンドセラピィ研究会学術集会会長</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 義手の種類と適応 2 義手の部位 3 義手の適合判定 4 切断に対する作業療法 義手の操作訓練の実際 5 義手国家試験問題演習 装具の種類と適応 6 スプリントの種類と適応 7 スプリントの種類と適応 8 総まとめ スプリント国家試験演習 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	義肢装具を必要とする疾患の概要を理解しておく		
教科書・教材等	教科書、講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 実際の義肢・装具、視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	義肢装具の知識は必ず身につけておかなければならなもので、予習・復習を行い十分理解できるようになって下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	高次脳機能障害治療学 I -1	担 当 教 官 名	掛川 泰朗
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	高次脳機能障害の定義、意識障害、注意障害、半側空間無視、記憶障害、失認、失行、失語、遂行機能障害、社会的行動障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 高次脳機能とその障害、症状別の評価・治療法について習得します。</p> <p>到達目標 ①高次脳機能について説明できる ②高次脳機能障害の概要を説明できる ③各症状の概要と評価、治療法を説明できる</p> <p>実務者経験 これまで18年間、総合病院で中枢神経疾患を中心に高次脳機能障害患者に対してリハビリテーションを実施。大学院では、高次脳機能障害、特に右半球損傷の人物や自己身体の誤認について研究し、学位(博士)を取得。2018年より大学で研究と教育に従事している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高次脳機能障害の作業療法(概論) 2 脳の各部位とその機能 3 意識障害・注意障害 4 記憶障害 5 半側空間無視 6 行為・行動障害 7 遂行機能障害 8 コミュニケーション障害 9 視覚失認 10 社会的行動障害 11 高次脳機能障害 症例検討 12 高次脳機能障害 症例検討レジュメの書き方 13 高次脳機能障害・脳画像の国家試験対策① 14 高次脳機能障害・脳画像の国家試験対策② 15 まとめ・臨床で見過ごされやすい高次脳機能障害 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	授業前に次回分の教科書を一読すると理解しやすいです		
教科書・教材等	石川朗総編集、高次脳機能障害・実習(15レクチャー作業療法テキスト),配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 プロジェクター・ホワイトボード・パソコン		
成績評価の方法	小テスト(30%) 定期試験(70%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	脳の機能と生活障害の関連づけを意識して理解する意識を持ってください。対象に寄り添うためには確実な理解と応用が必要です。単元終了時には小テストを予定しています。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	高次脳機能障害治療学 I-2	担 当 教 官 名	掛川 泰朗
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	高次脳機能障害の定義、意識障害、注意障害、半側空間無視、記憶障害、失認、失行、失語、遂行機能障害、社会的行動障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 高次脳機能とその障害、症状別の評価・治療法について習得します。</p> <p>到達目標 ①高次脳機能について説明できる ②高次脳機能障害の概要を説明できる ③各症状の概要と評価、治療法を説明できる ④各症状の評価・治療を実践できる</p> <p>実務者経験 これまで18年間、総合病院で中枢神経疾患を中心に高次脳機能障害患者に対してリハビリテーションを実施。大学院では、高次脳機能障害、特に右半球損傷の人物や自己身体の誤認について研究し、学位(博士)を取得。 2018年より大学で研究と教育に従事している。</p>		
講義計画・内容	1 作業療法プロセスの中の高次脳機能障害評価 2 脳画像の見方 3 注意障害に対する評価と作業療法 4 記憶障害に対する評価と作業療法 5 半側空間無視に対する評価と作業療法 6 行為・行動障害に対する評価と作業療法 7 遂行機能障害に対する評価と作業療法 8 コミュニケーション障害に対する評価と作業療法 9 視覚失認に対する評価と作業療法 10 評価から治療について 11 症例検討 1 事例紹介 12 治療 13 症例検討 2 事例紹介 14 治療 15 まとめ 16 定期試験なし、(レポート課題)		
準備学習	授業前に次回分の教科書を一読すると理解しやすいです		
教科書・教材等	石川朗総編集、高次脳機能障害・実習(15レクチャー作業療法テキスト)配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実 技 プロジェクター・ホワイトボード・パソコン		
成績評価の方法	小テスト(30%) レポート(70%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	脳の機能と生活障害の関連づけを意識して理解する意識を持ってください。対象に寄り添うためには確実な理解と応用が必要です。単元終了時には小テストを予定しています。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	作業療法総合演習Ⅲ-2	担 当 教 官 名	渡邊 弘樹
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	人体の形態構造 細胞 組織 器官の機能 総合的知識整理		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 3年次に学習した基礎知識を応用できるよう実践を通して学びます。</p> <p>到達目標 ①上皮組織、結合組織、軟骨、骨組織、筋組織および神経組織について構造と機能を説明できる ②発生の受精、胚葉の形成、胚子期、胎児期について説明できる ③人体各器官および顔面の発生について概説できる ④基礎医学知識の定着再確認と総合的知識の整理ができ、これを問題解決に応用できる</p> <p>実務者経験 前解剖学大学教授、医学博士(岡山大学)、歯科医師</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・細胞① 2 細胞② 3 上皮・結合組織 4 血管(動脈・静脈・毛細血管) 5 血液(血球と血漿) 6 筋組織(顔面手足の筋肉)と軟骨 7 復習①(細胞～軟骨:到達目標に達するためのチェックポイント) 8 前半まとめ 解剖学生理学的知識の融合の確認 9 骨組織Ⅰ(骨の細胞と骨の形態) 10 骨組織Ⅱ(骨の種類と骨の発生) 11 神経組織 12 運動生理 13 発生学 14 顔面発生と臓器発生 15 まとめ 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	特記無し		
教科書・教材等	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 医学書院 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 医学書院 配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演 習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	中間試験+定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	限られた講義時間ですべての必要項目を学ぶため、1講義あたりの進度が速い。よって、講義時に配布される穴埋め講義ノートプリントを利用した講義終了後の復習が、必要である。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	身体機能治療学Ⅲ-1(中枢系)	担 当 教 官 名	西林 賢裕
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	疾患別作業療法 作業療法評価 疾患特性に合わせた時期別作業プログラムの立案		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 中枢神経(脳・脊髄)疾患の特徴と作業療法評価・治療を関連づけて知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①臨床現場で出会う事のおおい中枢疾患における病態の理解 ②中枢疾患に対して適切な評価や活動分析を学び解釈する。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年—2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年—継続し臨床現場での作業療法を実施 　　臨床現場では様々な疾患を呈した患者を担当 2018年—理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年—臨床実習指導者講習修了 2023年—教育修士(専門職)修了</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 中枢神経疾患 (脳血管疾患・頭部外傷・脊髄損傷)</p> <p>3 中枢神経疾患 (脳血管疾患・頭部外傷・脊髄損傷)</p> <p>4 神経筋疾患 (ギランバレー症候群・多発性硬化症・重症筋無力症)</p> <p>5 神経筋疾患 (ギランバレー症候群・多発性硬化症・重症筋無力症)</p> <p>6 神経変性疾患 (パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症)</p> <p>7 神経変性疾患 (パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症)</p> <p>8 まとめ</p> <p>9 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	事前に教科書を読み内容を把握		
教科書・教材等	脳卒中リハビリテーション(インターメディカ) 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講 義　　視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	疾患から実態を確認していきます。その為にも作業療法を実施する上で、欠かせない医学的知識、作業療法評価、目標設定、学びを深めるよう講義を実施		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能治療学IV-1(運動・内部系)	担当教官名	岩井有香・谷村浩子
対象学生	3年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	自己免疫疾患 神経難病 がん 末梢神経損傷		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 運動器疾患や内部疾患の特徴と作業療法評価・治療を関連付けて知識を習得します。</p> <p>到達目標 1.対象の疾患に対し、特徴を説明できる。 2.医学的治療とOTの関連について説明できる。 3.各疾患に対するOT評価を説明できる。 4.各疾患の病期や程度にあわせてOTプログラムを立案できる。</p> <p>実務者経験 岩井:2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。 谷村:1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学附属病院入職(2012年まで) 2012年京都医健専門学校入職</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 関節リウマチ概説 (谷村) 2 関節リウマチ・変形性関節症の概説並びにOTの実際(谷村) 3 がんに対するOT 概論・周術期・終末期 (岩井) 4 末梢神経損傷概説 (谷村) 5 末梢神経損傷のOTの実際、ギランバレー症候群に対するOT(谷村) 6 皮膚筋炎・多発性筋炎・全身性エリテマトーデスに対するOT(岩井) 7 糖尿病に対するOT (岩井) 8 呼吸器疾患に対するOT (岩井) 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	内科学、整形外科学等関連する疾患についてを見直しておくこと。		
教科書・教材等	教科書、講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚教材等		
成績評価の方法	定期試験 100% IV-2での内容も試験範囲となる		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法を実施する上での基礎となります。十分な予習・復習を行って下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	身体機能治療学IV-2 (内部・運動系)	担当教官名	岩井有香・谷村 浩子
対象学生	3 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15 回
授業のキーワード	神経難病 がん 末梢神経損傷 スプリント 治療手技		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 運動器疾患や内部疾患の特徴に合わせた作業療法評価と治療の計画の立案と実践を体験を通して習得します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の疾患に対し、特徴を説明できる。 2. 医学的治療とOTの関連について説明できる。 3. 各疾患に対するOT評価を説明できる。 4. 各疾患の病期や程度にあわせてOTプログラムを立案できる。 <p>実務者経験 岩井:2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職。臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。 谷村:1985年作業療法士免取得、専門作業療法士(手外科)2010認定ハンドセラピスト(2009)、教育学修士(2023) 1985年大阪医科大学付属病院入職(2012年迄)、2012年京都医健専門学校入職</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、上肢運動器疾患に対するOTの実際 (岩井) 2 関節リウマチに対する評価(谷村) 3 関節リウマチ、OAに対するOTの実際 症例検討(谷村) 4 がんに対するOTの実際 症例検討 (岩井) 5 末梢神経損傷に対する知覚検査(谷村・岩井) 6 末梢神経損傷に対するOTアプローチ(谷村) 7 末梢神経損傷・GBSに対するOTの実際 症例検討(谷村) 8 呼吸器疾患に対する評価とOTアプローチ(岩井) 9 治療手技:スプリント作製 コックアップスプリント 型紙作製(谷村・岩井) 10 治療手技:スプリント作製 コックアップスプリント(谷村・岩井) 11 治療手技:スプリント作製 コックアップスプリント(谷村・岩井) 12 治療手技:スプリント作製 短対立、RIC(谷村・岩井) 13 治療手技:スプリント作製 短対立、RIC(谷村・岩井) 14 治療手技:スプリント作製 webスペーサー(谷村・岩井) 15 国家試験演習 身体機能障害学まとめ (岩井) 16 定期試験・試験解説 		
準備学習	疾患に対する基礎知識を有しておくこと。		
教科書・教材等	教科書・講義資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 実際のスプリント、視聴覚教材等		
成績評価の方法	提出物:症例検討レポート(70%)、作製したスプリント(30%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	国家試験にもよく出題される範囲です。しっかり理解して下さい。スプリント作製はOTに取って大きな武器になります。技術の習得に努めて下さい。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	日常生活活動学Ⅱ-1	担当教官名	西林 賢裕
対象学生	3 年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8 回
授業のキーワード	日常生活活動評価 疾患別動作 動作観察		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床で関わる機会の多い日常生活活動を分析する方法を習得します。</p> <p>到達目標 ①ADLの評価と治療の計画および実施のために、疾患を理解する ②家庭での生活行為の評価計画とプログラム立案を理解する</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年—2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年—継続し臨床現場での作業療法を実施 臨床現場では環境を含めた活動動作指導を実施 2018年—理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年—臨床実習指導者講習修了 2023年—教育修士(専門職)修了の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 日常生活活動の評価 (FIM) 3 日常生活活動の評価 (FIM) 4 脳血管障害のADL 5 神経筋疾患のADL 6 運動器障害のADL 7 整形外科疾患のADL 8 まとめ 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	演習と合わせて実施するので演習前にしっかりと内容を把握しておく		
教科書・教材等	教科書：作業療法学 ゴールドマスター日常生活活動学		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士が取り扱う主要な業務です。しっかりとまなびましょう		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	発達障害治療学	担 当 教 官 名	田中 裕二
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	反射・反応 発達評価 発達障害 脳性麻痺		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 発達障害疾患の特徴、作業療法評価と治療を関連付けて習得します。</p> <p>到達目標 ①人間発達の視点から各段階における健康問題や支援について説明できる ②各障害について理解し、評価・治療内容を考えることが出来る</p> <p>実務者経験 2009年 作業療法士・臨床道化師 2019年 認定作業療法士 2021年 公認心理師 2022年 発達心理士</p>		
講義計画・内容	<p>1 オリエンテーション、発達領域の作業療法とは 2 未就学児の作業療法 3 未就児の作業療法 4 脳性麻痺の作業療法 5 ペーパーペイント 6 治療プログラム立案 7 ASDの作業療法 8 ペーパーペイント 9 治療プログラム立案 10 ADHDの作業療法 11 ペーパーペイント 12 治療プログラム立案 13 LDの作業療法 14 ペーパーペイント 15 治療プログラム立案 16 定期試験・試験解説</p>		
準備学習	授業当日か翌日中に復習をしましょう		
教科書・教材等	作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 発達障害作業療法学		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士として、どの分野でも必要な知識になります。初めて聞く単語も多いため、予習・復習を行いましょう。 国家試験、臨床の知識に活かしていく様に共に学んでいきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	福祉住環境論	担 当 教 官 名	堂岡 悠理
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	住環境 福祉用具 個別性 自立支援		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 住環境整備の意義と作業療法で必要な制度、在宅改修の基礎知識などを習得します。</p> <p>到達目標 ①疾患・障害の特徴や生活上の問題を捉え、必要な福祉住環境整備を説明することができる ②対象者の個別性を捉え、自立支援のあり方を理解する ③福祉住環境コーディネーター3級を取得することができる。</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の生活状況と住環境整備(住環境整備の問題点と課題) 2 疾患別、障害別にみる住環境整備(脳血管疾患・脊髄損傷) 3 疾患別、障害別にみる住環境整備(関節リウマチ パーキンソン病・内部疾患) 4 福祉住環境整備の共通基本技術 5 生活行為別福祉住環境整備の手法 6 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識 7 福祉住環境コーディネーター取得について 8 まとめ 練習問題 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	普段の生活から家屋状況・周辺環境について調べておくこと		
教科書・教材等	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法を実践するにあたり、対象者の家屋状況を知ることは重要になります。生活行為向上マネジメントの環境因子の分析を捉えることができるようになります。また福祉住環境コーディネーター3級の取得も目指します。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基專)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	福祉用具学	担 当 教 官 名	堂岡 悠理
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	福祉用具 自助具 代償的アプローチ 個別性		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 福祉用具の意義と臨床で必要な制度、適合方法について習得します。</p> <p>到達目標 ①福祉用具の目的を説明することができる ②ADLと福祉用具の関係性について説明することができる ③福祉用具を代償的アプローチとして使用することができる</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床では総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し、退院支援にも携わってきた。さらに臨床では、片手で内服ができる自助具を作成し、学会で発表。臨床経験から、対象者の生活機能を代償する自助具の選定、適用の手順、方法について教授する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉用具の概論 介護保における福祉用具 バリアフリー展について 2 バリアフリー展2025(福祉用具の活用方法と住環境) 3 バリアフリー展2025(福祉用具の活用方法と住環境) 4 福祉用具の種類と活用方法 (起居,床上,移乗,移動) 5 福祉用具の種類と活用方法 (食事,整容,更衣,排泄) 6 福祉用具の作製(ソックスエイド)と活用方法 家事 余暇コミュニケーション機器 7 福祉用具の実践(症例から活用方法を学ぶ) 8 まとめ (疾患から福祉用具を捉える) 国家試験問題 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	普段の生活から代償的アプローチについて理解しておく。		
教科書・教材等	配布資料、福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器使用		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	福祉用具を使用し代償的にアプローチする視点は、作業療法士の専門性を発揮する上で重要になります。本講義で生活を支える作業療法士について学習していきましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	老年期障害治療学Ⅱ-1	担 当 教 官 名	堂岡 悠理
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回
授業のキーワード	Parkinson病 評価 治療 環境調整		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 老年期障害の特徴と作業療法評価・治療を関連付けて知識を習得します。</p> <p>到達目標 ①高齢者で起こりやすい神経疾患について説明できる ②高齢パーキンソン病における作業療法について説明できる ③高齢者の転倒により発生する神経疾患について説明できる ④認知症高齢者の病態・診断・治療・介護を理解する</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当、また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 高齢期に多い疾患（循環器疾患） 2 高齢期に多い疾患（呼吸器疾患・神経疾患） 3 Parkinson病の疫学・症状 4 Parkinson病に対する作業療法評価（振戦 固縮 無動） 5 Parkinson病に対する作業療法評価（バランス 歩行 ADL IADL） 6 Parkinson病に対する治療（可動域 筋力 持久力 歩行） 7 Parkinson病に対する治療（基本動作 ADL 環境設定 福祉用具） 8 高齢期作業療法治療学（まとめ） 9 定期試験・試験解説 		
準備学習	高齢期に多い疾患、特にParkinson病について事前に予習しておいてください。		
教科書・教材等	配布資料 標準作業療法学-作業療法評価学第3版 高齢期作業療法学-第4版(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講 義 視聴覚機器(パソコン プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	主にParkinson病に対する評価・治療などのプロセスを学びます。また、臨床実習や国家試験に向けての学習も取り入れながら実施していきます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	そ の 他
授 業 科 目 名	キャリア教育演習Ⅲ	担 当 教 官 名	西林賢裕・岩井有香・竹内章子
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	専門的能力の向上 臨床実習の深化 キャリア目標の明確化		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 集団協議や面接を繰り返しながら職業人としての基礎を習得します。</p> <p>到達目標 ①作業療法における高度な評価技術と治療方法を習得し、臨床現場で即戦力となるスキルを身に付ける。 ②長期の臨床実習を通じて、患者との関わりやチーム医療での役割を深く理解し、実践的な経験を積む。 ③自身のキャリアゴールを具体的に設定し、その達成に向けた計画を立てる。</p> <p>実務者経験 2008年 作業療法士免許取得 2008年～2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年～現在も教育現場と臨床現場で研鑽 2018年～理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年～臨床実習指導者講習修了 2023年～教育修士（専門職）修了 修士論文：協調学習の実践とアンケート調査に基づく効果の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 企業課題に取り組む実務型プロジェクト 3 自主企画イベントの計画と実施 4 自主企画イベントの計画と実施 5 問題解決手法の深化(デザイン思考など) 6 問題解決手法の深化(デザイン思考など) 7 リーダーシップ開発 8 フィードバックを元に自己改善計画を作成 9 現場での意思決定シミュレーション 10 キャリアポートフォリオの作成と発表 11 キャリアポートフォリオの作成と発表 12 メンターとの一对一セッション 13 メンターとの一对一セッション 14 最終的なキャリアプランの策定 15 まとめ 16 自己振り返り 		
準備学習	配布資料の確認		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演習 視聴覚機器 グループワーク(アクティブラーニング形式)		
成績評価の方法	レポート評価(100%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会や職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を重視した講義を展開していきます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野																																		
授業科目名	作業療法総合演習Ⅲ-1	担当教官名	岩井有香・竹内章子																																		
対象学生	3年	履修学期	通年																																		
必修・選択の別	必修	授業回数	30回																																		
授業のキーワード	臨床思考過程 教育用電子カルテ 客観的臨床能力試験																																				
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 3年次に学習した基本の手技を応用できるよう実践を通して習得します。</p> <p>到達目標 ①評価から治療までの流れを理解し説明できる ②作業療法の実践を通じ対象者理解のための臨床推論を展開できる ③カルテの見方や他部門情報の役立て方を実践し説明できる</p> <p>実務者経験 2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科薬科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。</p>																																				
講義計画・内容	<table border="0"> <tr><td>1 OSCE オリエンテーション</td><td>17 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)</td></tr> <tr><td>2 OSCE 標準予防策・リスク管理</td><td>18 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)</td></tr> <tr><td>3 OSCE コミュニケーション技法</td><td>19 作業療法の実際(ハンドセラピー 蓬莱谷氏)</td></tr> <tr><td>4 OSCE 高次脳機能障害の推測</td><td>20 作業療法の実際(ハンドセラピー 蓬莱谷氏)</td></tr> <tr><td>5 OSCE 車椅子の駆動介助</td><td>21 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)</td></tr> <tr><td>6 OSCE 移乗介助</td><td>22 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)</td></tr> <tr><td>7 OSCE 関節可動域測定</td><td>23 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)</td></tr> <tr><td>8 OSCE 筋力測定</td><td>24 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)</td></tr> <tr><td>9 OSCE 感覚検査</td><td>25 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)</td></tr> <tr><td>10 OSCE 反射検査</td><td>26 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)</td></tr> <tr><td>11 OSCE 脳卒中の麻痺側運動評価</td><td>27 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)</td></tr> <tr><td>12 OSCE 脳卒中の麻痺側運動評価</td><td>28 作業療法の実際 症例検討発表</td></tr> <tr><td>13 OSCE 運動失調検査</td><td>29 作業療法の実際 症例検討発表</td></tr> <tr><td>14 OSCE 立位バランス</td><td>30 まとめ</td></tr> <tr><td>15 作業療法の実際(デイサービス 葉山氏)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)</td><td></td><td></td></tr> </table>			1 OSCE オリエンテーション	17 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)	2 OSCE 標準予防策・リスク管理	18 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)	3 OSCE コミュニケーション技法	19 作業療法の実際(ハンドセラピー 蓬莱谷氏)	4 OSCE 高次脳機能障害の推測	20 作業療法の実際(ハンドセラピー 蓬莱谷氏)	5 OSCE 車椅子の駆動介助	21 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)	6 OSCE 移乗介助	22 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)	7 OSCE 関節可動域測定	23 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)	8 OSCE 筋力測定	24 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)	9 OSCE 感覚検査	25 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)	10 OSCE 反射検査	26 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)	11 OSCE 脳卒中の麻痺側運動評価	27 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)	12 OSCE 脳卒中の麻痺側運動評価	28 作業療法の実際 症例検討発表	13 OSCE 運動失調検査	29 作業療法の実際 症例検討発表	14 OSCE 立位バランス	30 まとめ	15 作業療法の実際(デイサービス 葉山氏)			16 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)		
1 OSCE オリエンテーション	17 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)																																				
2 OSCE 標準予防策・リスク管理	18 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)																																				
3 OSCE コミュニケーション技法	19 作業療法の実際(ハンドセラピー 蓬莱谷氏)																																				
4 OSCE 高次脳機能障害の推測	20 作業療法の実際(ハンドセラピー 蓬莱谷氏)																																				
5 OSCE 車椅子の駆動介助	21 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)																																				
6 OSCE 移乗介助	22 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)																																				
7 OSCE 関節可動域測定	23 作業療法の実際(福祉用具 船谷氏)																																				
8 OSCE 筋力測定	24 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)																																				
9 OSCE 感覚検査	25 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)																																				
10 OSCE 反射検査	26 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)																																				
11 OSCE 脳卒中の麻痺側運動評価	27 MTDLPを用いた事例検討(患者経験講師)																																				
12 OSCE 脳卒中の麻痺側運動評価	28 作業療法の実際 症例検討発表																																				
13 OSCE 運動失調検査	29 作業療法の実際 症例検討発表																																				
14 OSCE 立位バランス	30 まとめ																																				
15 作業療法の実際(デイサービス 葉山氏)																																					
16 作業療法の実際(自動車運転 岩佐氏)																																					
準備学習	授業準備は開始前までにグループで確認を実施																																				
教科書・教材等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・測定技術編、(第2版 補正版)																																				
授業の形式 教育機器の活用	演習 教育用電子カルテ・視聴覚教材																																				
成績評価の方法	レポート100%																																				
担当教官から (履修にあたっての留意点)	評価実習・総合臨床実習に向けて、作業療法実習生としての振る舞いや正確かつ効率のよい技術、根拠に基づいた臨床思考過程の習得を目指し、さまざまな相手と実技練習やディスカッションを行いましょう。																																				

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野		
授 業 科 目 名	精神障害治療学Ⅱ－1	担 当 教 官 名	西島裕二 佐平安紀子		
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	通 年		
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	8 回		
授業のキーワード	精神科疾患の特性 参加型講義 アウトプット				
	<p>授業の概要 臨床で重要な精神疾患の特性や評価・治療に関して、国家試験の過去問題や論文を通じ理解を深めていく。</p> <p>到達目標 精神疾患を伴う対象者に対しての評価と治療内容を説明することができる。</p> <p>実務者経験 西島裕二 成人から老年期を中心とし、急性期から在宅支援における作業療法の実践に従事し、18年目となる。</p> <p>佐平安紀子 小児～老年期を中心とし、臨床および教育機関での作業療法業務に従事し、18年目となる。</p>				
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の作業療法評価と治療について(佐平) 2 統合失調症の作業療法評価と治療について(西島) 3 器質性精神障害の作業療法評価と治療について(佐平) 4 神経症性障害の作業療法評価と治療について(西島) 5 児童・青年期の精神障害(佐平) 6 気分障害の作業療法評価と治療について(西島) 7 摂食障害、睡眠覚醒障害の作業療法評価と治療について(佐平) 8 パーソナリティ障害の作業療法評価と治療について(西島) 9 定期試験・試験解説 				
準備学習	精神医学の復習(教科書)をしておいて下さい。				
教科書・教材等	・長崎重信(監) : 作業療法学ゴールドマスター テキスト 精神障害作業療法				
授業の形式 教育機器の活用	講 義 パソコン プロジェクター				
成績評価の方法	定期試験				
担当教官から (履修にあたっての留意点)	上記講義内容は進行具合により変更することがあります。				

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 閔 分 野
授 業 科 目 名	精神障害治療学Ⅱ-2	担 当 教 官 名	西島裕二 佐平安紀子
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	精神科疾患の特性 参加型講義 模擬的実践		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 精神疾患の特性をICFの構造に当てはめ考えていく。実技や演習を通して、模擬的な実践を強化する。</p> <p>到達目標 精神科分野の臨床実習で必要な態度・知識・技術を模擬的に実践できる。</p> <p>実務者経験 西島裕二 成人から老年期を中心とし、急性期から在宅支援における作業療法の実践に従事し、18年目となる。</p> <p>佐平安紀子 小児～老年期を中心とし、臨床および教育機関での作業療法業務に従事し、18年目となる。</p>		
講義計画・内容	<p>1 精神科作業療法の基礎について(西島、佐平)</p> <p>2 小集団での活動の模擬実践①(西島、佐平)</p> <p>3 小集団での活動の模擬実践②(西島、佐平)</p> <p>4 認知症の臨床像と作業療法の実践に対する演習(佐平)</p> <p>5 統合失調症の臨床像と作業療法の実践に対する演習(西島)</p> <p>6 アルコール依存症の臨床像と作業療法の実践に対する演習(佐平)</p> <p>7 パニック障害の臨床像と作業療法の実践に対する演習(西島)</p> <p>8 自閉症スペクトラムの作業療法の実践に対する演習(佐平)</p> <p>9 気分障害の作業療法の実践に対する演習(西島)</p> <p>10 統合失調症(回復期)の模擬事例治療演習①(西島、佐平)</p> <p>11 統合失調症(回復期)の模擬事例治療演習②(西島、佐平)</p> <p>12 統合失調症(回復期)の模擬事例治療演習③(西島、佐平)</p> <p>13 摂食障害の作業療法の実践に対する演習(佐平)</p> <p>14 パーソナリティ障害の作業療法の実践に対する演習(西島)</p> <p>15 まとめ</p>		
準備学習	精神治療学Ⅰを復習しておいて下さい。		
教科書・教材等	<p>・長崎重信(監)：作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版),メジカルビュー社,2021. ISBN:978-4-7583-2046-7</p> <p>・山根寛(監)：精神障害と作業療法【新版】 病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践,三和書店,2017. ISBN978-4-89590-583-1</p>		
授業の形式 教育機器の活用	演習 パソコン プロジェクター		
成績評価の方法	提出物や演習課題により判定します		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	上記講義内容は進行具合により変更することがあります。 グループ内発表や実技演習が多く含まれます。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	地域作業療法学Ⅲ	担 当 教 官 名	富松 衛/堂岡 悠理
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	作業療法士の役割 地域医療 地域連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 地域リハビリテーションの作業療法士の関りについて実践的に習得します</p> <p>到達目標 ①症例検討を実践し、臨床思考過程を理解する ②地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を理解する</p> <p>実務者経験 2016年 作業療法士免許取得 臨床時には総合病院で主に急性期を担当。また地域包括ケア病棟での作業療法を経験し退院支援にも携わってきた。京都府作業療法士会ではMTDLP推進委員に所属している 2020年 臨床実習指導者講習会 2021年 第一回理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会 2024年 中級パラスポーツ指導者養成講習会</p>		
講義計画・内容	<p>1 MTDLPについて(インターク 生活行為アセスメント演習シート) 2 MTDLPについて(生活行為向上プランシート マネジメントシート) 3 MTDLPについて(生活行為申し送り表 症例に対してのプロセス) 4 スポーツを手段とした作業療法の役割 地域におけるスポーツの役割 5 ユニバーサルスポーツの考案 6 ユニバーサルスポーツの実践 7 オリエンテーション 8 インターク面接の流れと実践 9 アセスメントの流れと実践 10 ニーズ整理表の作成 11 サービス等利用計画書の作成 12 サービス等利用計画書の作成 13 本人向けサービス等利用計画書の制作 14 本人向けサービス等利用計画書の制作 15 まとめ(就労)</p>		
準備学習	提供した事例に対する具体的な評価・介入計画について自己学習する。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	演 習 視聴覚機器		
成績評価の方法	レポート課題 (ループリック評価)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	地域における作業療法士の役割は多岐にわたります。就労やスポーツを手段とした作業療法士の役割を学び、地域でも活躍できる作業療法士を目指しましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習Ⅲ(見学実習)	担当教官名	岩井有香・学科専任教員
対象学生	3 年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	80 時間
授業のキーワード	作業療法治療の目的 客観的能力試験 実習報告		
授業の概要及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習指導者の指導・管理のもと、対象者の面接や評価を実施します。また、リハに携わるスタッフの対象社に対する接し方や評価の目的や項目の選択方法を学びます。</p> <p>到達目標 ①職業人としての常識的態度を身につける ②責任ある行動を身につけ、実践することができる ③実習で体験・見学下作業療法士の職務内容を説明できる ④実習施設における作業療法部門の位置づけや、実施内容を説明することができる</p> <p>実務者経験 2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<p>【実習前】</p> <p>実習オリエンテーション ・ 推論試験 ・ 客観的能力試験(OSCE)</p> <p>【臨床実習】</p> <p>作業療法士の実習施設における役割と対象者に対する治療の目的を理解できる</p> <p>臨床推論を展開できる</p> <p>【実習後】</p> <p>実習報告会 ・ 推論試験 ・ 客観的能力試験(OSCE)</p>		
準備学習	学習した知識・技術の復習		
教科書・教材等	所有している教科書・資料等		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器(レポート作成・報告会等)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	評価実習にむけて、作業療法の役割・目的を理解しすること、対象者や指導者、他職種スタッフとの良好な関係性を構築することを見学実習で習得し、知識・技術における自己の課題を把握しましょう。自己意識(他者から自分はどうみえているか、自分は自分自身をどうとらえているか)を向上させましょう。.		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	臨床実習IV(評価実習)	担 当 教 官 名	岩井有香・学科専任教員
対 象 学 生	3 年	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	200 時 間
授業のキーワード	作業療法評価 客観的能力試験 実習報告		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 臨床実習指導者の管理の下で、作業療法の評価計画を立案し、実際の評価結果をまとめ、治療計画の立案までを体験しながら習得します。また、地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材の育成のために、臨床実習指導者の管理の下で、医療・地域分野など様々な作業療法現場で実際の作業療法を理解します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ①作業療法評価計画を立てることができる ②対象者に必要な評価手段を選択できる ③評価結果を整理し全体像を把握することができる ④域包括ケアシステムの概要を説明できる <p>実務者経験 2007年作業療法士国家資格取得 2007年医療法人和風会 千里リハビリテーション病院入職 2010年大阪医科大学附属病院(現:大阪医科大学病院)入職 2023年より現職 臨床現場では、脳血管疾患、脳腫瘍、整形外科疾患、内部疾患などの多岐にわたる症例の診療に携わってきた。</p>		
	<p>【実習前】</p> <p>実習オリエンテーション・推論試験・客観的能力試験</p> <p>【臨床実習】</p> <p>対象者に応じた作業療法評価を実施しする。 評価結果を解釈しプログラムを立案する。</p> <p>【実習後】</p> <p>実習報告会・推論試験・客観的能力試験</p>		
講義計画・内容			
準備学習	代表的な疾患に関する基本的な作業療法評価に対する知識・技能の習得を行う		
教科書・教材等	所有している教科書・資料等		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器(レポート作成・報告会等)		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	質の高い作業療法治療を行うための、対象者に応じた評価計画を立案し、正確かつ安全に評価を実施しましょう。評価した結果を統合・解釈し、患者さん主体の目標を立てたうえで治療プログラムを立案してください。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野
授 業 科 目 名	臨床実習V(総合臨床実習)	担 当 教 官 名	岩井有香・西林賢裕
対 象 学 生	4 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	360時間(5月12日~7月11日) 40時間:学内
授業のキーワード	作業療法評価・治療 症例報告 OSCE		
授業の概要 及び到達目標	授業の概要 臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価・治療などを経験します。		
	<p>到達目標 一般的な特性を有する対象者に対して、医療人として望ましい態度で、作業療法実践課程(初期評価・計画立案・治療実施・再評価)を臨床実習指導者の指導の下に遂行できる。また、作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-現在も教育現場と臨床現場で研鑽 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了 2023年-教育修士(専門職)修了 修士論文:協調学習の実践とアンケート調査に基づく効果の分析</p>		
講義計画・内容	<p>【臨床実習施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度 ・基本的臨床技能(評価・再評価) ・基本的臨床技能(治療) ・作業療法管理・運営 		<p>【学内】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習前 ・オリエンテーション ・筆記試験(臨床推論) ・実技(OSCE)
			<p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例報告会 ・筆記試験(臨床推論) ・実技(OSCE)
準備学習	観察・評価法の復習、評価のまとめについて学習しOSCEや臨床推論を通して臨床能力の形成評価を行う。		
教科書・教材等	これまで使用した教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実習 視聴覚機器		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	臨床実習では、作業療法士の行動を学びます。指導は真摯に受け止め、主体的に行動に移すこと、基本的な学生の身なり、立ち振る舞いに関する意識をもつよう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	專 門 分 野
授 業 科 目 名	臨床実習VI(総合臨床実習)	担 当 教 官 名	岩井有香・西林賢裕
対 象 学 生	4 年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	360時間(8月4日~10月3日) 40時間:学内
授業のキーワード	作業療法評価・治療 症例報告 OSCE		
授業の概要 及び到達目標	授業の概要 臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価・治療などを経験します。		
	<p>到達目標 一般的な特性を有する対象者に対して、医療人として望ましい態度で、作業療法実践課程(初期評価・計画立案・治療実施・再評価)を臨床実習指導者の指導の下に遂行できる。また、作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年—2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年—現在も教育現場と臨床現場で研鑽 2018年—理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年—臨床実習指導者講習修了 2023年—教育修士(専門職)修了 修士論文:協調学習の実践とアンケート調査に基づく効果の分析</p>		
講義計画・内容	<p>【臨床実習施設】 【学内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的態度 ・基本的臨床技能(評価・再評価) ・基本的臨床技能(治療) ・作業療法管理・運営 ・オリエンテーション ・筆記試験(臨床推論) ・実技(OSCE) <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例報告会 ・筆記試験(臨床推論) ・実技(OSCE) 		
準備学習	観察・評価法の復習、評価のまとめについて学習しOSCEや臨床推論を通して臨床能力の形成評価を行う。		
教科書・教材等	これまで使用した教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実 習 視聴覚機器		
成績評価の方法	実習施設評価(50%) 学内評価(50%)		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	臨床実習では、作業療法士の行動を学びます。指導は真摯に受け止め、主体的に行動に移すこと、基本的な学生の身なり、立ち振る舞いに関する意識をしましょう。		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	専 門 分 野																																																
授 業 科 目 名	作業療法科総合演習IV-1	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾・オムニバス																																																
対 象 学 生	4 年	履 修 学 期	後 期																																																
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	30 回																																																
授業のキーワード	人体の構造と機能 循環器系 消化器系 泌尿器系 呼吸器系 代謝 内分泌系 神経系 感覚器																																																		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 生命維持にかかせない概念を習得し、本授業終了時には人体の構造・機能について説明ができるようになる。</p> <p>到達目標 どの領域においても国試レベルでの問題正解率80%前後を達成することができるようになる。</p> <p>実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を受ける。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2001歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。</p>																																																		
講義計画・内容	<table> <tbody> <tr><td>1 オリエンテーション・循環器系①(構造を中心)</td><td>17 作業療法管理学</td><td></td></tr> <tr><td>2 循環器系②(生理学的範囲)</td><td>18 作業療法学と治療学(共通)</td><td></td></tr> <tr><td>3 消化器系の生理学①</td><td>19 作業療法学と治療学(身体障害)</td><td></td></tr> <tr><td>4 消化器系の生理学②</td><td>20 作業療法学と治療学(身体障害)</td><td></td></tr> <tr><td>5 泌尿器系①(構造を中心)</td><td>21 作業療法学と治療学(身体障害)</td><td></td></tr> <tr><td>6 泌尿器系②(生理学的範囲)</td><td>22 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)</td><td></td></tr> <tr><td>7 呼吸器系①構造と生理学</td><td>23 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)</td><td></td></tr> <tr><td>8 呼吸器系②酸塩基平衡</td><td>24 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)</td><td></td></tr> <tr><td>9 代謝①基礎代謝とエネルギー代謝</td><td>25 作業療法学と治療学(発達障害)</td><td></td></tr> <tr><td>10 代謝②体温調節・糖代謝</td><td>26 作業療法学と治療学(発達障害)</td><td></td></tr> <tr><td>11 内分泌系①総論系</td><td>27 地域作業療法学</td><td></td></tr> <tr><td>12 内分泌系②各論</td><td>28 地域作業療法学</td><td></td></tr> <tr><td>13 神経系の生理学①</td><td>29 臨床実習</td><td></td></tr> <tr><td>14 神経系の生理学②</td><td>30 まとめ</td><td></td></tr> <tr><td>15 感覚器系まとめ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16 基礎作業療法学</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			1 オリエンテーション・循環器系①(構造を中心)	17 作業療法管理学		2 循環器系②(生理学的範囲)	18 作業療法学と治療学(共通)		3 消化器系の生理学①	19 作業療法学と治療学(身体障害)		4 消化器系の生理学②	20 作業療法学と治療学(身体障害)		5 泌尿器系①(構造を中心)	21 作業療法学と治療学(身体障害)		6 泌尿器系②(生理学的範囲)	22 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)		7 呼吸器系①構造と生理学	23 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)		8 呼吸器系②酸塩基平衡	24 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)		9 代謝①基礎代謝とエネルギー代謝	25 作業療法学と治療学(発達障害)		10 代謝②体温調節・糖代謝	26 作業療法学と治療学(発達障害)		11 内分泌系①総論系	27 地域作業療法学		12 内分泌系②各論	28 地域作業療法学		13 神経系の生理学①	29 臨床実習		14 神経系の生理学②	30 まとめ		15 感覚器系まとめ			16 基礎作業療法学		
1 オリエンテーション・循環器系①(構造を中心)	17 作業療法管理学																																																		
2 循環器系②(生理学的範囲)	18 作業療法学と治療学(共通)																																																		
3 消化器系の生理学①	19 作業療法学と治療学(身体障害)																																																		
4 消化器系の生理学②	20 作業療法学と治療学(身体障害)																																																		
5 泌尿器系①(構造を中心)	21 作業療法学と治療学(身体障害)																																																		
6 泌尿器系②(生理学的範囲)	22 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)																																																		
7 呼吸器系①構造と生理学	23 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)																																																		
8 呼吸器系②酸塩基平衡	24 作業療法学と治療学(精神・心理の障害)																																																		
9 代謝①基礎代謝とエネルギー代謝	25 作業療法学と治療学(発達障害)																																																		
10 代謝②体温調節・糖代謝	26 作業療法学と治療学(発達障害)																																																		
11 内分泌系①総論系	27 地域作業療法学																																																		
12 内分泌系②各論	28 地域作業療法学																																																		
13 神経系の生理学①	29 臨床実習																																																		
14 神経系の生理学②	30 まとめ																																																		
15 感覚器系まとめ																																																			
16 基礎作業療法学																																																			
準備学習	解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域の概念の先行予習																																																		
教科書・教材等	「解剖学」改訂 第5版 医学書院 「生理学」改訂第6版 医学書院																																																		
授業の形式 教育機器の活用	演習 骨模型・視聴覚機器利用																																																		
成績評価の方法	各回の理解度試験にて評価を行う																																																		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	正常な人体の形態・構造、機能・機序に関する理解は作業療法士として必須項目である。臨床で不可欠の知識、十分な理解が望まれる。暗記に偏りがちな分野であるが、着実に学習して欲しい。講義内容が膨大なものとなるため、予習、復習は必須条件である。																																																		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基専)	専 門 分 野																																
授 業 科 目 名	作業療法総合演習IV-2	担 当 教 官 名	山脇 昌・西林 賢裕																																
対 象 学 生	4 年	履 修 学 期	後 期																																
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	30 回																																
授業のキーワード	点ではなく線で覚える																																		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 4年間学習した基礎知識を臨床知識に活かし応用できるように実践を通して習得し、国家試験にも対応できる実力を養成します。</p> <p>到達目標 どの領域においても国試レベルでの問題正解率80%前後を達成することができるようになる。</p> <p>実務者経験 東京大学医学部で15年間、講師、准教授として教育・研究・実習・チューター制度に携わり、満期退職後は現在まで京都医健専門学校で10年間、解剖生理学、一般臨床医学、国試対策授業に従事して授業、教育経験が豊富である。</p>																																		
講義計画・内容	<table border="0"> <tr><td>1 オリエンテーション、運動器</td><td>17 循環器疾患</td></tr> <tr><td>2 運動器</td><td>18 循環器疾患</td></tr> <tr><td>3 運動器</td><td>19 循環器疾患</td></tr> <tr><td>4 運動器</td><td>20 消化器疾患</td></tr> <tr><td>5 神経学一般</td><td>21 消化器疾患</td></tr> <tr><td>6 神経学一般</td><td>22 呼吸器疾患</td></tr> <tr><td>7 脳卒中</td><td>23 呼吸器疾患</td></tr> <tr><td>8 脳卒中</td><td>24 腎疾患</td></tr> <tr><td>9 脳卒中</td><td>25 腎疾患</td></tr> <tr><td>10 高次脳機能障害</td><td>26 代謝疾患</td></tr> <tr><td>11 高次脳機能障害</td><td>27 遺伝性疾患</td></tr> <tr><td>12 神経筋変性疾患</td><td>28 感染症</td></tr> <tr><td>13 神経筋変性疾患</td><td>29 悪性腫瘍</td></tr> <tr><td>14 神経筋変性疾患</td><td>30 予備</td></tr> <tr><td>15 神経筋変性疾患</td><td></td></tr> <tr><td>16 模試解説</td><td></td></tr> </table>			1 オリエンテーション、運動器	17 循環器疾患	2 運動器	18 循環器疾患	3 運動器	19 循環器疾患	4 運動器	20 消化器疾患	5 神経学一般	21 消化器疾患	6 神経学一般	22 呼吸器疾患	7 脳卒中	23 呼吸器疾患	8 脳卒中	24 腎疾患	9 脳卒中	25 腎疾患	10 高次脳機能障害	26 代謝疾患	11 高次脳機能障害	27 遺伝性疾患	12 神経筋変性疾患	28 感染症	13 神経筋変性疾患	29 悪性腫瘍	14 神経筋変性疾患	30 予備	15 神経筋変性疾患		16 模試解説	
1 オリエンテーション、運動器	17 循環器疾患																																		
2 運動器	18 循環器疾患																																		
3 運動器	19 循環器疾患																																		
4 運動器	20 消化器疾患																																		
5 神経学一般	21 消化器疾患																																		
6 神経学一般	22 呼吸器疾患																																		
7 脳卒中	23 呼吸器疾患																																		
8 脳卒中	24 腎疾患																																		
9 脳卒中	25 腎疾患																																		
10 高次脳機能障害	26 代謝疾患																																		
11 高次脳機能障害	27 遺伝性疾患																																		
12 神経筋変性疾患	28 感染症																																		
13 神経筋変性疾患	29 悪性腫瘍																																		
14 神経筋変性疾患	30 予備																																		
15 神経筋変性疾患																																			
16 模試解説																																			
準備学習	配布資料の復習を中心に行う																																		
教科書・教材等	独自作成資料を使用する																																		
授業の形式 教育機器の活用	演 習 原則対面パワポ授業 状況によりMSチームズを使用した遠隔授業																																		
成績評価の方法	定期試験はない。業者模試の成績などを卒業判定判断材料とする。																																		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	国試では同一問題同一正解肢の出題はまずありません。丸暗記は意味がないので選択肢を一つずつ判断できるようにならないと、問題が変わると答えがわからなくなってしまいます。そのためには配布資料で、ある事柄に関する重要なポイントを点ではなく線で理解することが重要です。																																		

2025年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	作 業 療 法 科	授 業 科 目 区 分(基 専)	そ の 他
授 業 科 目 名	キャリア教育演習IV	担 当 教 官 名	西林賢裕・岩井有香
対 象 学 生	4 年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必 修	授 業 回 数	15 回
授業のキーワード	自己理解の深化 キャリアプランの具体化 社会でのスキル習得		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 作業療法士を目指すための学業への取り組み方、臨床現場で求められる行動やコミュニケーション法について、体験を通して習得する。</p> <p>到達目標 ①社会でのスキル習得 ②社会人基礎力の醸成 ③持続的学びの姿勢の育成</p> <p>実務者経験 2006年 作業療法士免許取得 2006年-2012年 地域領域・回復期と幅広く臨床現場を経験 2012年-現在も教育現場と臨床現場で研鑽 2018年-理学療法士作業療法士専任養成講習終了 2021年-臨床実習指導者講習修了 2023年-教育修士(専門職)修了 修士論文:協調学習の実践とアンケート調査に基づく効果の分析</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 就職のためのガイダンス 3 臨床に向けての心構え 4 国家試験合格に向けての取り組み 5 履歴書セミナー 6 面接対策 7 小論文の書き方 8 一般常識 9 模擬面接会 10 模擬面接会 11 企業との就職セミナー 12 企業との就職セミナー 13 企業との就職セミナー 14 企業との就職セミナー 15 まとめ 16 自己振り返り 		
準備学習	特記無し		
教科書・教材等	特記無し		
授業の形式 教育機器の活用	演 習 視聴覚教材使用		
成績評価の方法	レポート(自己振り返り) 100%		
担当教官から (履修にあたっての留意点)	作業療法士として業務するにあたり、社会人基礎力をしっかりと身につけられるよう努めましょう		